

ADWAYS

August 2019

PRESENTATION MATERIAL



AUGUST 5, 2019

東証マザーズ：2489

株式会社アドウェイズ

2020年3月期第1四半期

決算説明会

2019年8月5日

代表取締役社長 岡村 陽久

FIRST
QUARTER

目次

1. 第1四半期の業績 ...P.3
2. 事業概況 ...P.14
3. 補足資料 ...P.32

1 第1四半期の業績

- Chapter1 : **First quarter results**

当四半期の業績と 前年同四半期・前四半期比較

[単位：百万円]

	2020年3月期 第1四半期	前年同四半期比 2019年3月期第1四半期			前四半期比 2019年3月期第4四半期		
		実績	増減額	増減率	実績	増減額	増減率
売上高	9,026	11,443	▲2,417	▲21.1%	9,330	▲304	▲3.3%
売上総利益	1,454	2,117	▲663	▲31.3%	1,672	▲217	▲13.0%
販管費	1,564	1,706	▲142	▲8.3%	1,637	▲73	▲4.5%
営業利益	▲109	411	▲521	—	34	▲144	—
経常利益	▲75	318	▲394	—	228	▲304	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲266	193	▲460	—	346	▲612	—

売上高 前年同四半期比 **24億17百万円の減少** (21.1%減)
前四半期比 **3億4百万円の減少** (3.3%減)

営業利益 前年同四半期比 **5億21百万円の減少** (-)
前四半期比 **1億44百万円の減少** (-)

第1四半期における売上・営業利益の増減要因

[売上高 前四半期比(事業別)]

	当四半期 2020/1Q	前四半期 2019/4Q	増減額
スマートフォン	4,525	4,198	+326
インターネット	3,567	4,037	▲469
海 外	705	871	▲165
合 計	8,797	9,160	▲308

[営業利益 前四半期比(事業別)]

	当四半期 2020/1Q	前四半期 2019/4Q	増減額
スマートフォン	416	606	▲190
インターネット			
海 外	▲94	▲86	▲7
合 計	322	519	▲197

[単位：百万円]

[主な増減要因]

スマートフォン [売上高：3億26百万円の増加]

UNICORNの売上高増加に加え、ゲームアプリにおいて、海外クライアントのインバウンド案件受注、また国内クライアントにおいて新規タイトルの受注数が増加。

インターネット [売上高：4億69百万円の減少]

金融：主にクレジットカードにおいて、予算消化時期である4Qからの反動減。＜季節性の要因＞

E C：主に健康食品及びコスメ美容関連において、景表法遵守に伴い案件の精査を行ったことによる影響。

海 外 [売上高：1億65百万円の減少]

ゲームアプリは引続き堅調に推移したものの、中国のブランド広告においてナショナルクライアントの予算が縮小。営業利益においては、販管費の見直しにより影響小。

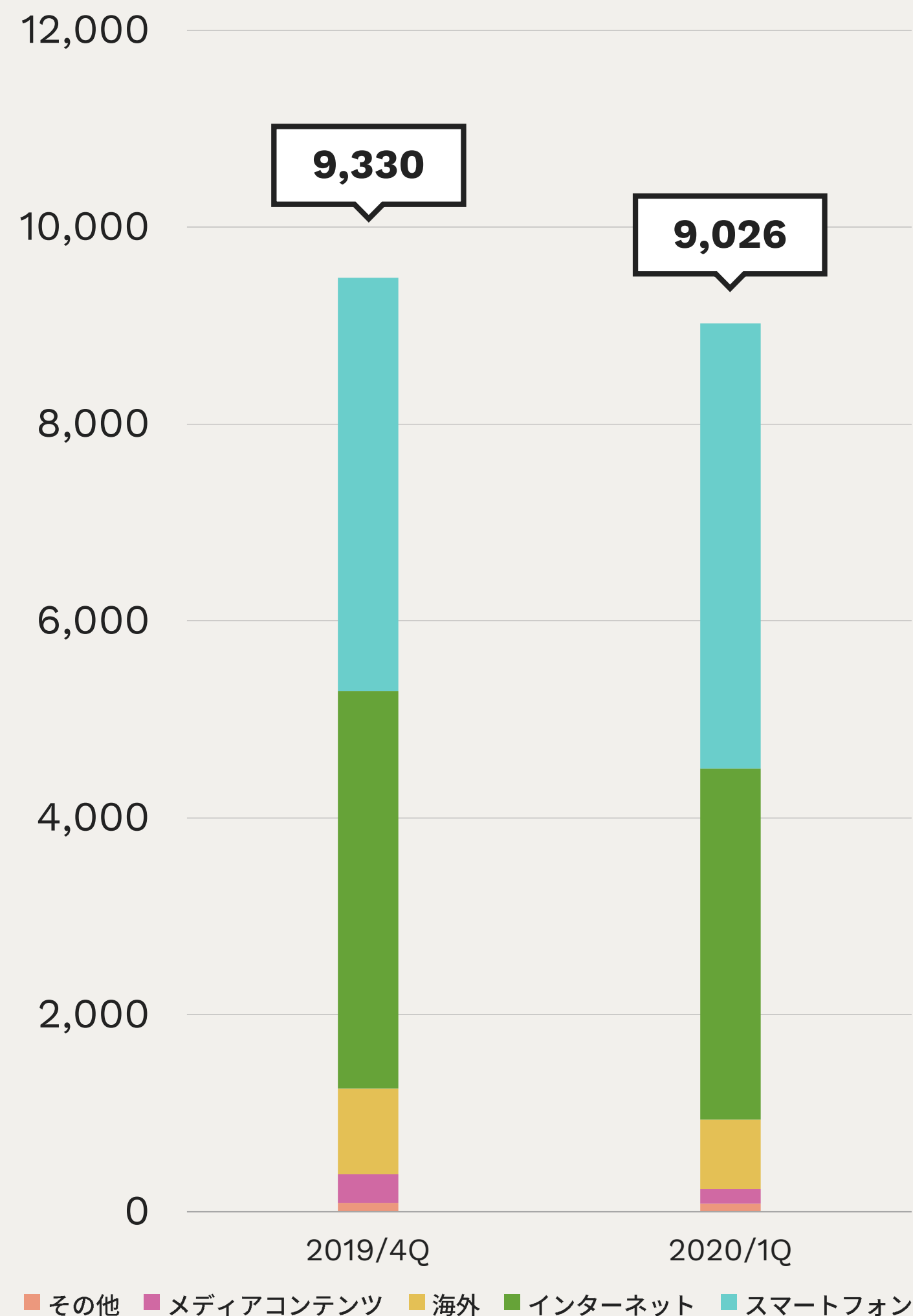
2020年3月期業績予想と実績

[単位：百万円]

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
通期予想	43,200	730	770	252
当第1四半期実績	9,026	▲109	▲75	▲266
進捗率※	20.9%	－%	－%	－%

売上高の前四半期比較

単位：百万円



Copyright © Adways Inc. All Rights Reserved.

国内広告業・・・80億92百万円

前四半期比：1億42万円減（1.7%減）

スマートフォン・・・45億25百万円

（主にアプリ広告）

前四半期比：3億26百万円増（7.8%増）

UNICORNの売上高増加に加え、ゲームアプリにおいて、海外クライアントのインバウンド案件受注、また国内クライアントにおいても、新規タイトルの受注が増加。

インターネット・・・35億67百万円

（PCWeb広告及びスマートフォンweb広告）

前四半期比：4億69百万円減（11.6%減）

〔金融〕 主にクレジットカードにおいて、予算消化時期である4Qからの反動減。(季節性の要因)

〔EC〕 主に健康食品及びコスメ美容関連において、景表法遵守に伴い案件の精査を行ったことによる影響。

海外事業・・・・・・・・7億5百万円

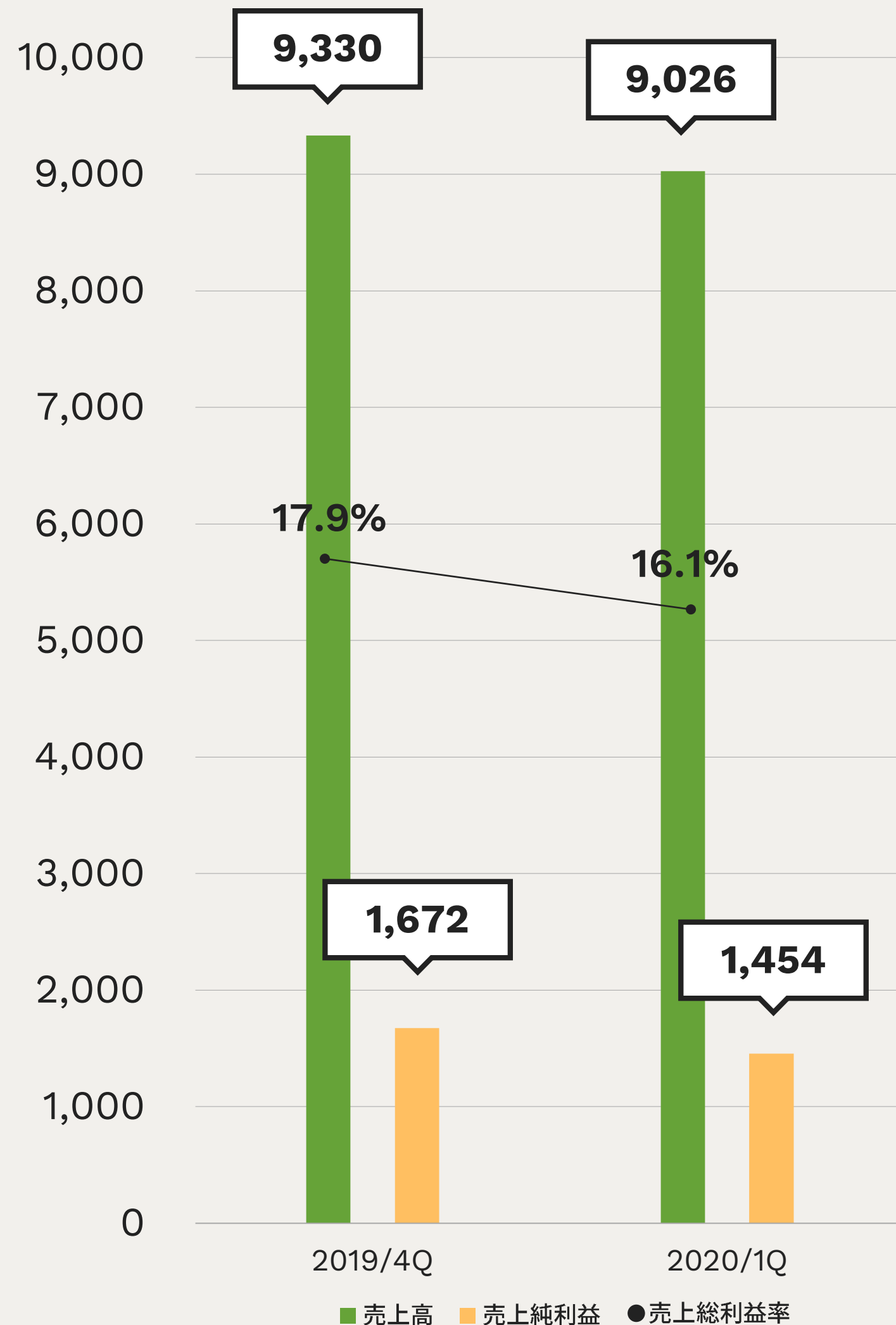
前四半期比：1億65百万円減（19.0%減）

ゲームアプリは引続き堅調に推移したものの、中国のブランド広告においてナショナルクライアントの予算が縮小。

※海外子会社（インド除く）の決算期は12月のため、当社グループにおける2020年3月期第1四半期会計期間の連結決算対象期間は1月～3月となります。

売上総利益の前四半期比較

単位：百万円



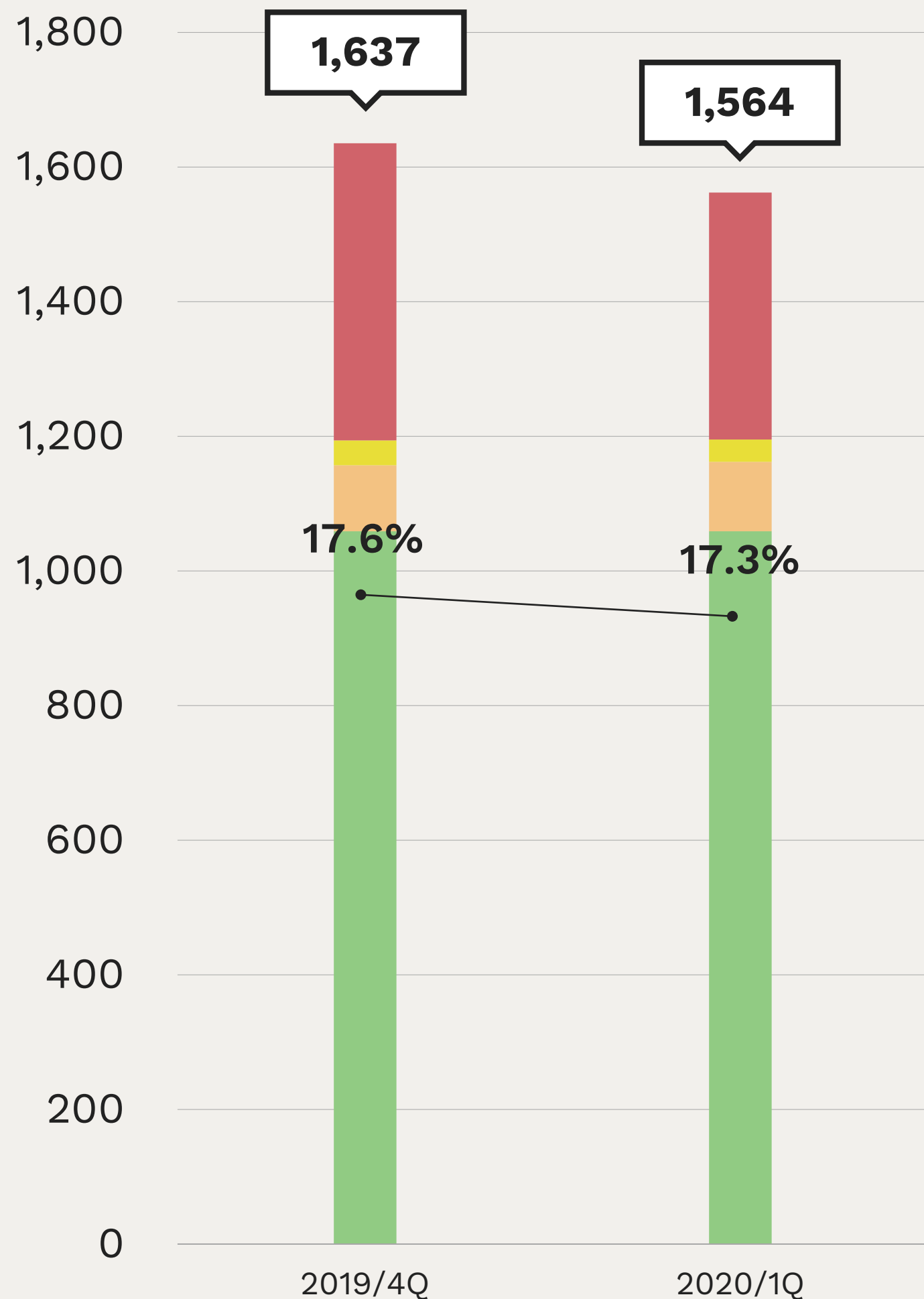
当四半期売上総利益 14億54百万円

前四半期比：2億17百万円減（13.0%減）

売上総利益率：16.1%（1.8ポイント減）

販管費の前四半期比較

単位：百万円



当四半期販管費 15億64百万円

前四半期比：73百万円減（4.5%減）

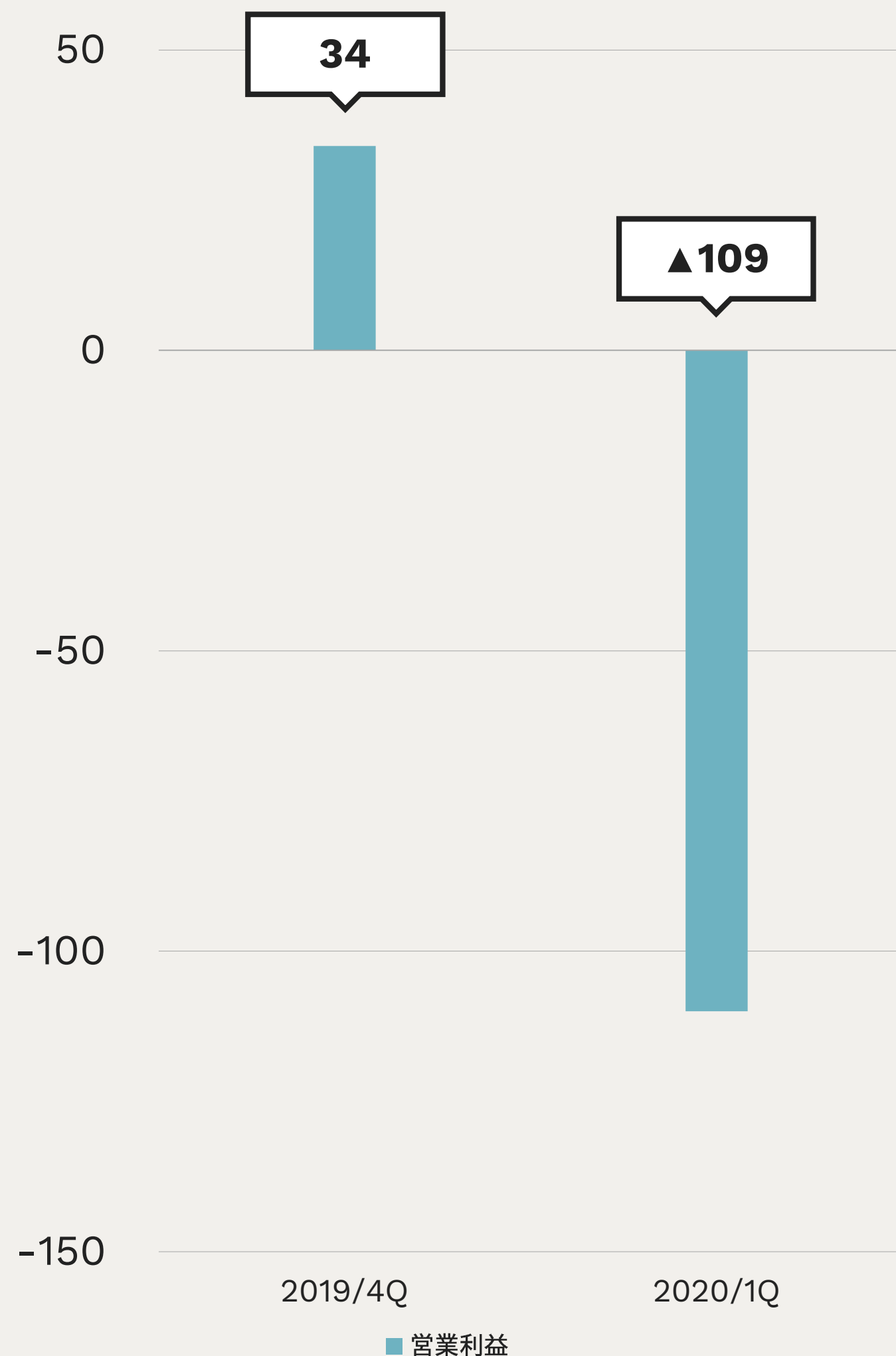
販管費率：17.3%（0.3ポイント減）

主な減少要因

- ・ 海外子会社の販管費体制の見直し 約86百万円減
（インド子会社の売却含む）

営業利益の前四半期比較

単位：百万円



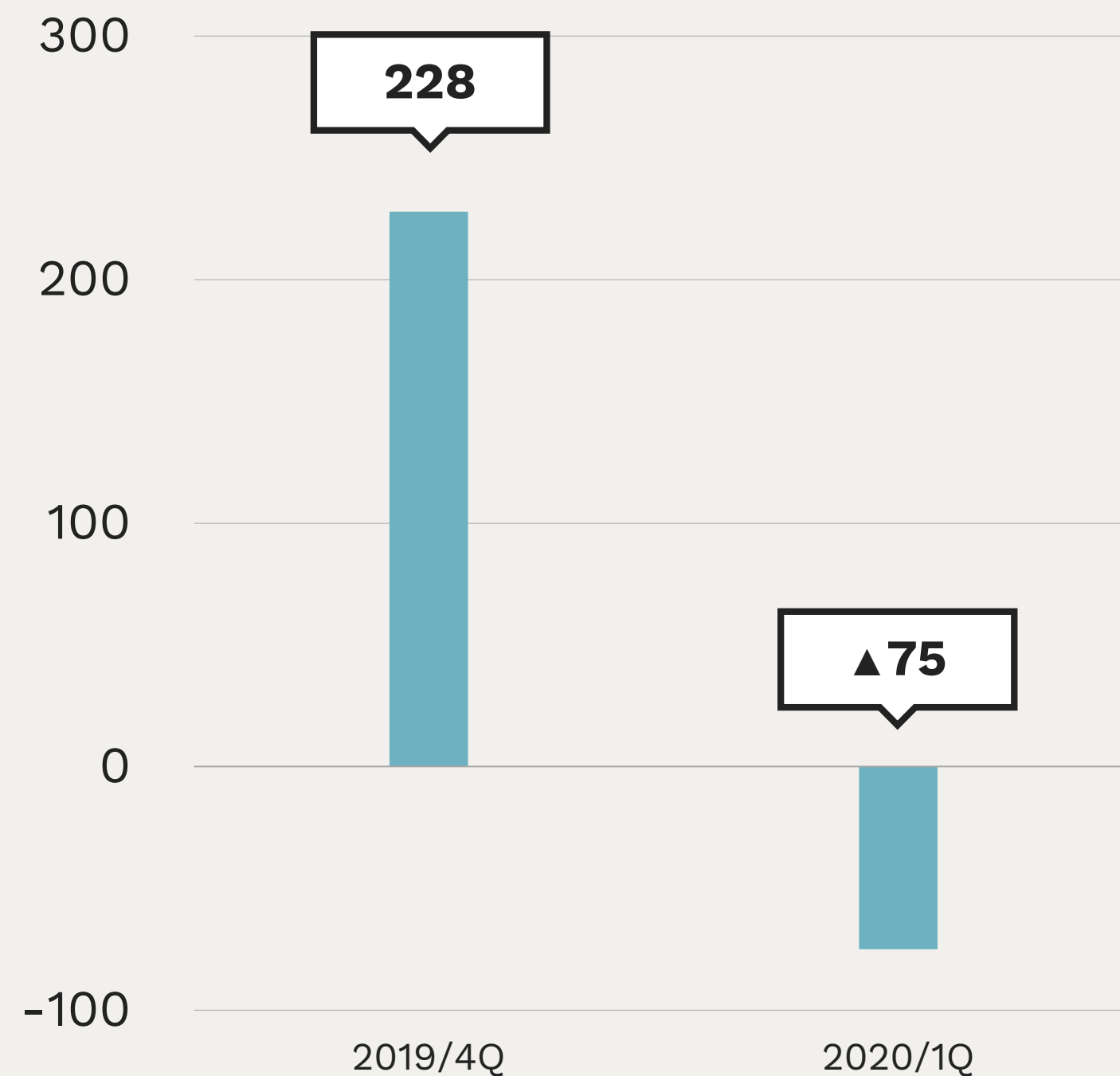
当四半期営業利益 ▲1億9百万円

前四半期比：1億44百万円減（－）

- ・ 売上総利益の減少による減少

経常利益の 前四半期比較

単位：百万円

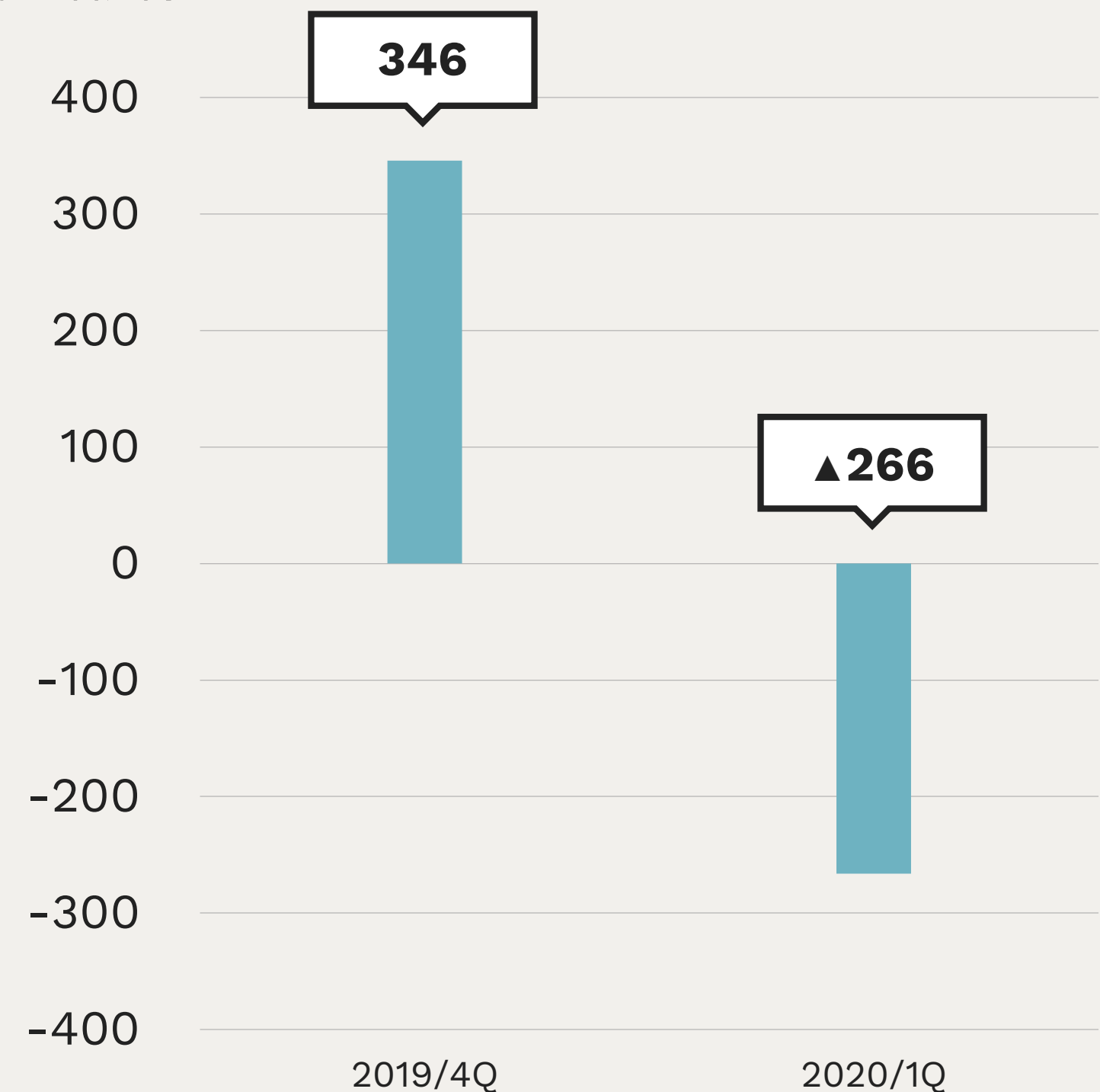


当四半期経常利益 ▲75百万円

前四半期比：3億4百万円減（－）

親会社株主に帰属する 四半期純利益の 前四半期比較

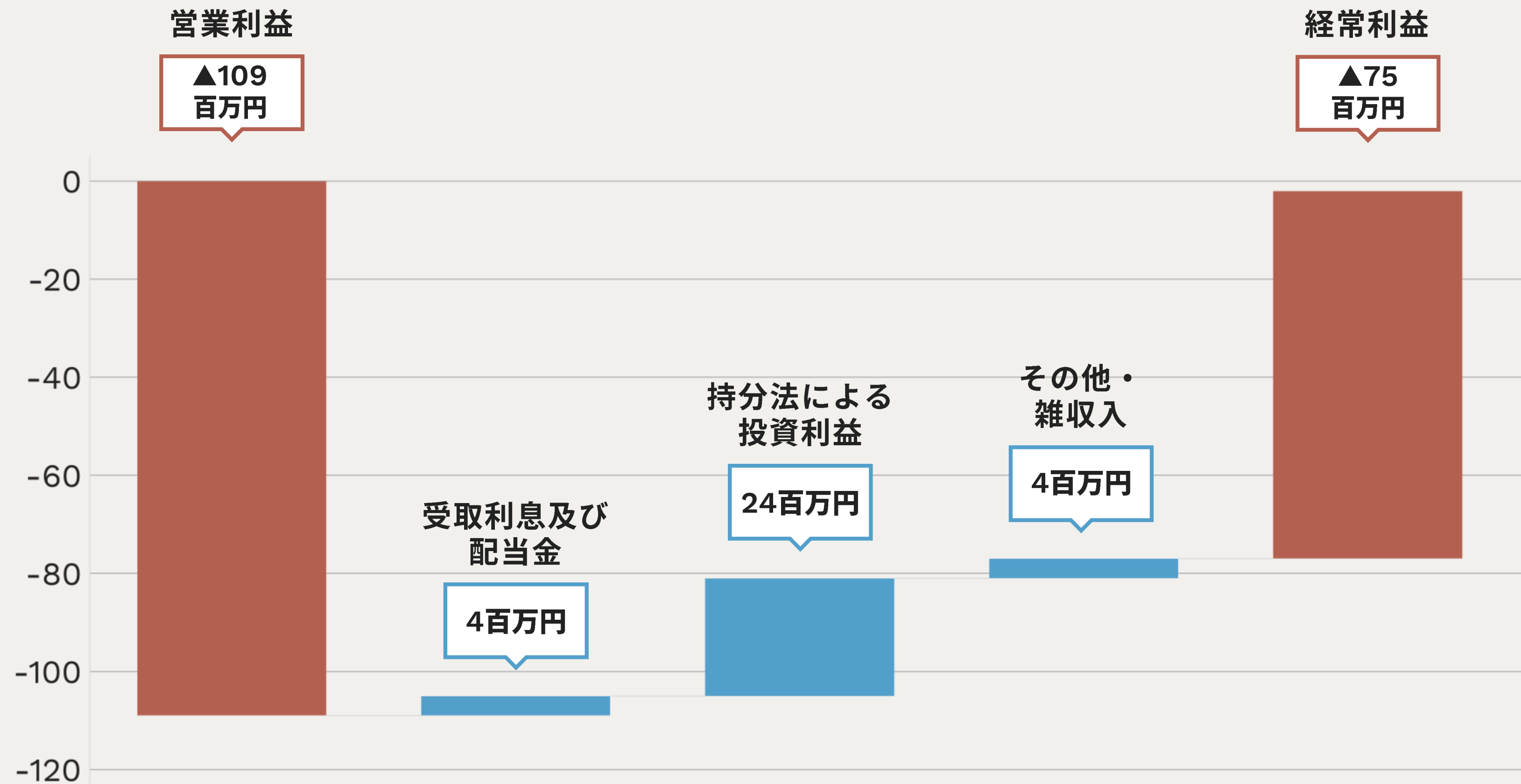
単位：百万円



**親会社に帰属する
当四半期純利益 ▲2億66百万円**

前四半期比：6億12百万円減（－）

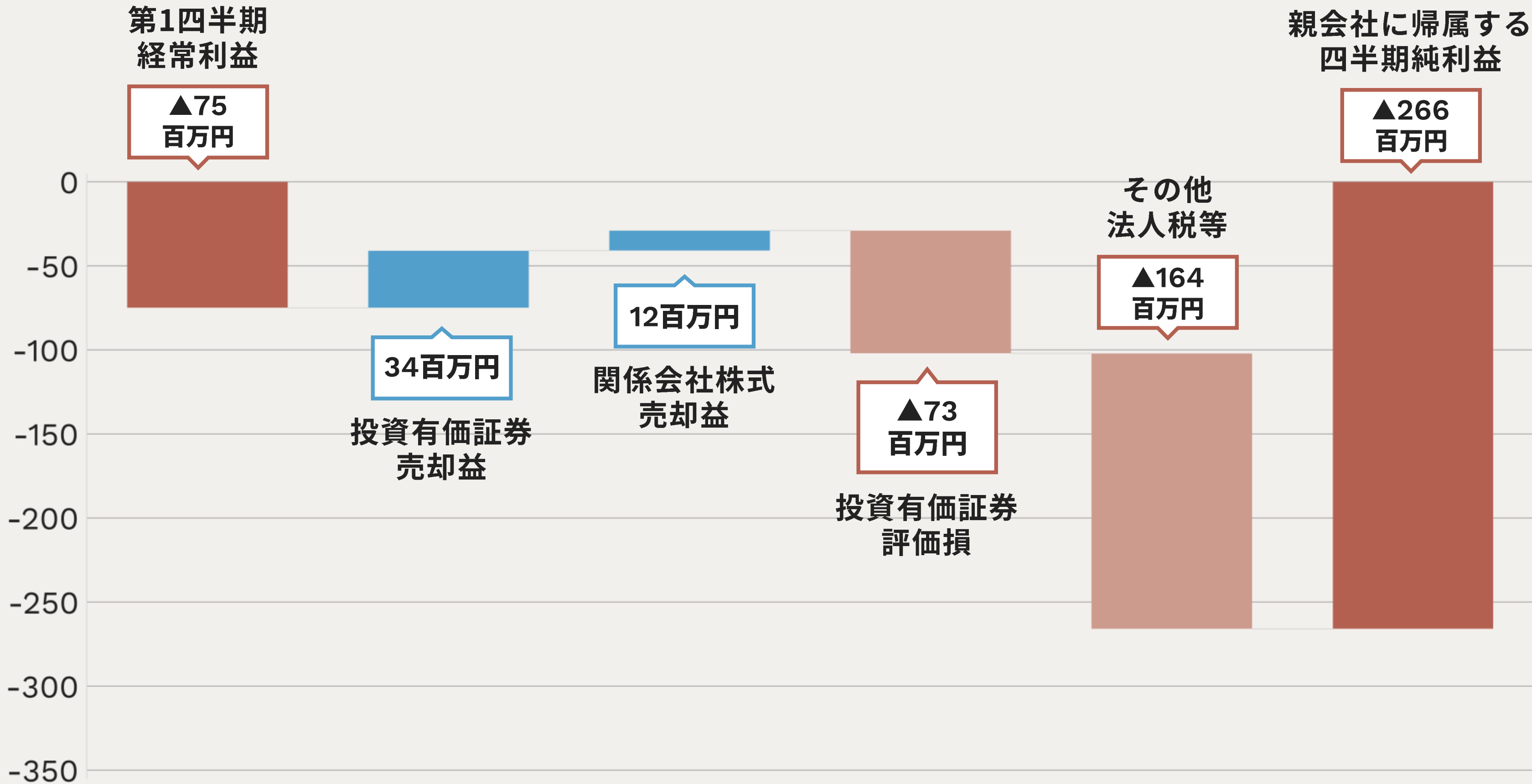
経常利益の推移



単位：百万円

受取利息及び配当金 4百万円
持分法による投資利益 24百万円
その他・雑収入 4百万円

親会社株主に帰属する四半期純利益の推移



単位：百万円

投資有価証券売却益	．．．．	34百万円	銘柄数（3社）
関係会社株式売却益	．．．．	12百万円	
投資有価証券評価損	．．．．	▲73百万円	銘柄数（5社）
その他法人税等	．．．．	▲164百万円：うち本社法人税▲152百万円	

事業概況

Chapter2 : **business overview**

2.

連結売上高の推移

first quarter

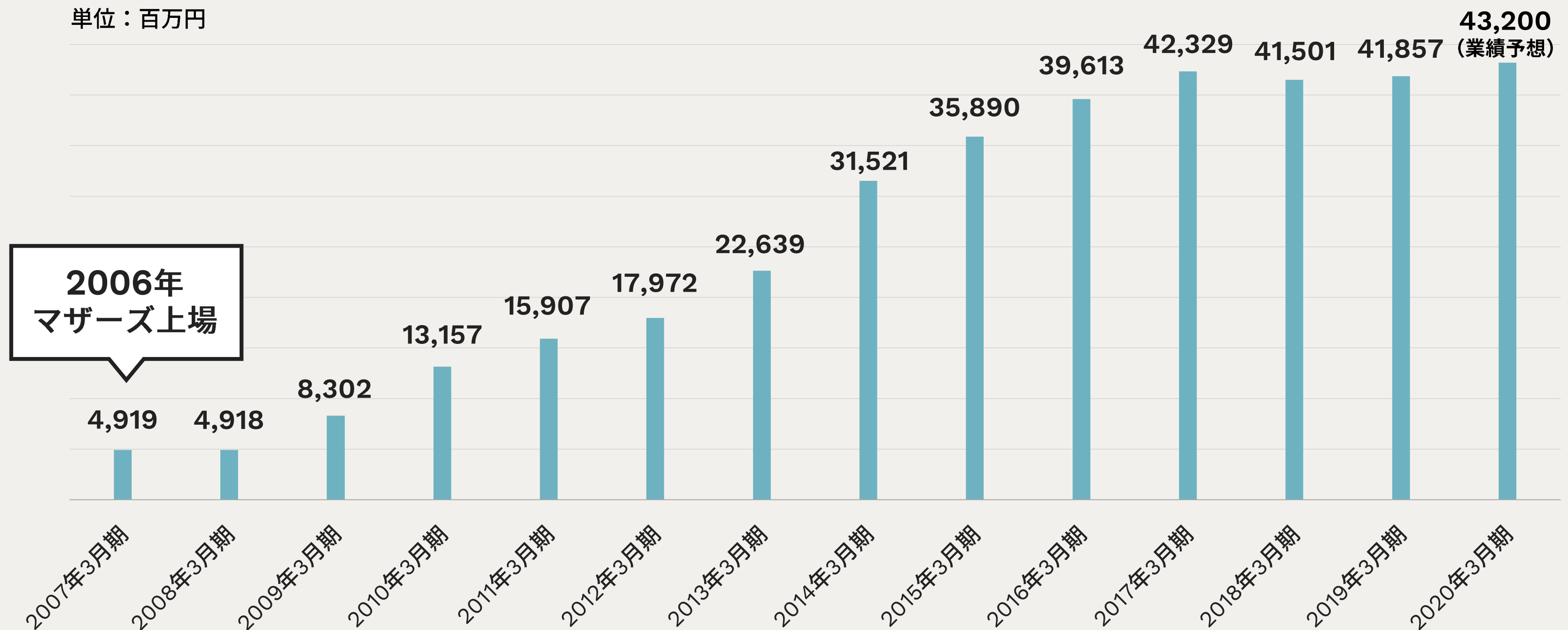
PC/フィーチャーフォン
アフィリエイト事業に注力

スマートフォン広告事業
の開始と拡大

海外への注力

新規プロダクト
への注力

単位：百万円



経営理念に基づいた 人 儲け

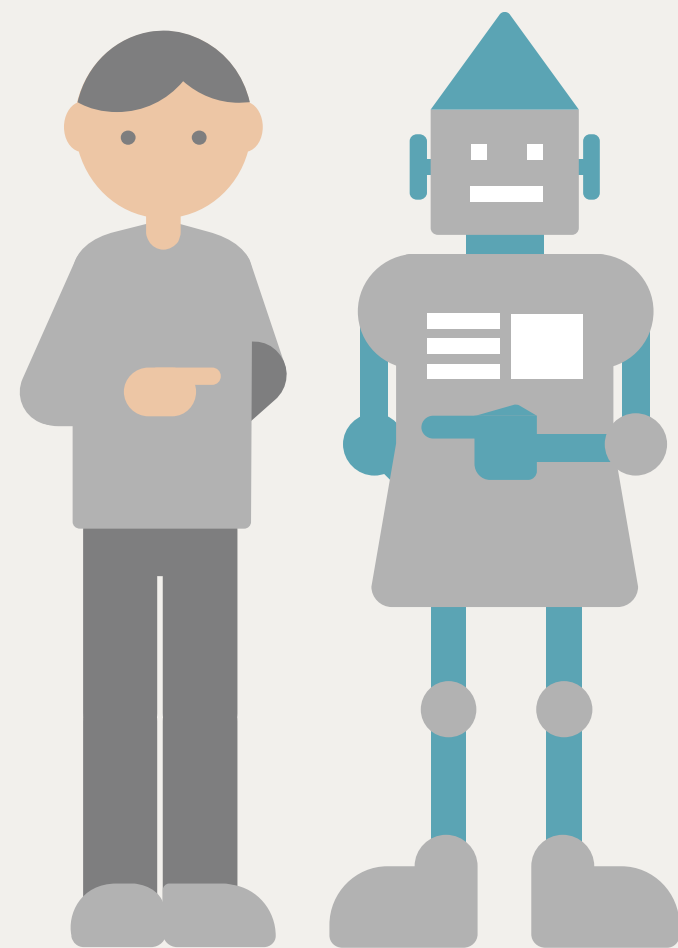


人と機械の共生

人と機械の共生とは

first quarter

1



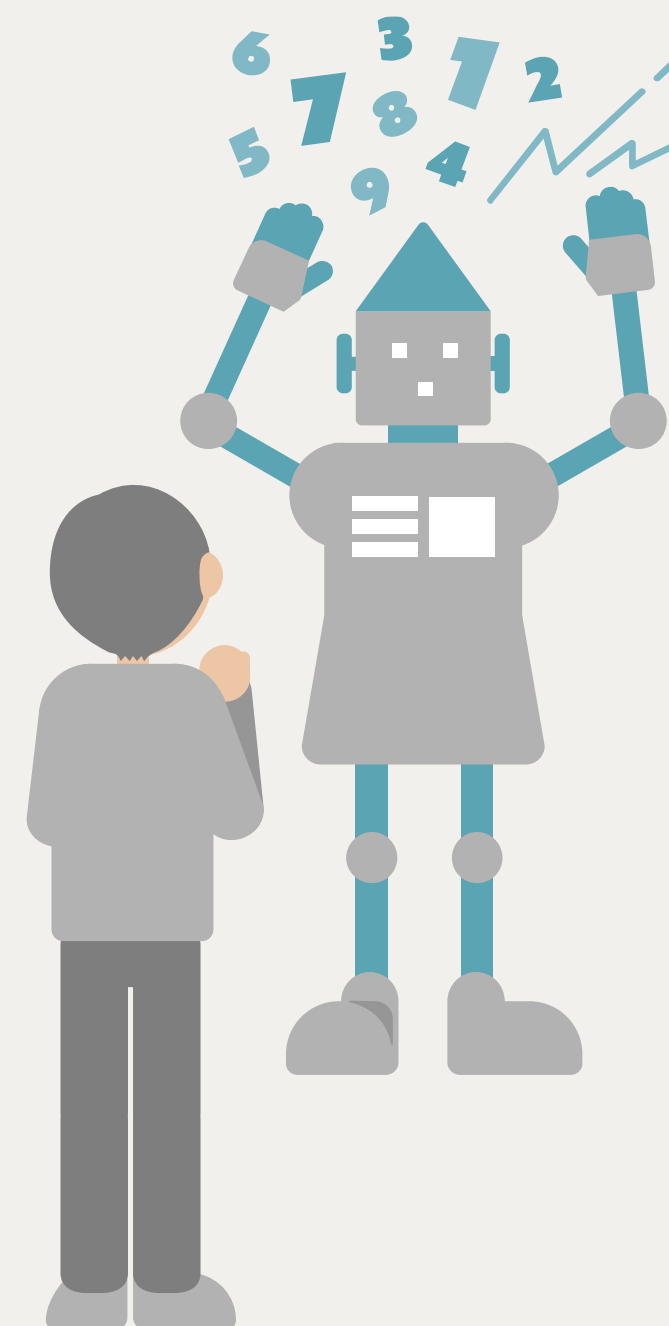
人が担うべきか
機械が担うべきか
見極めること

2



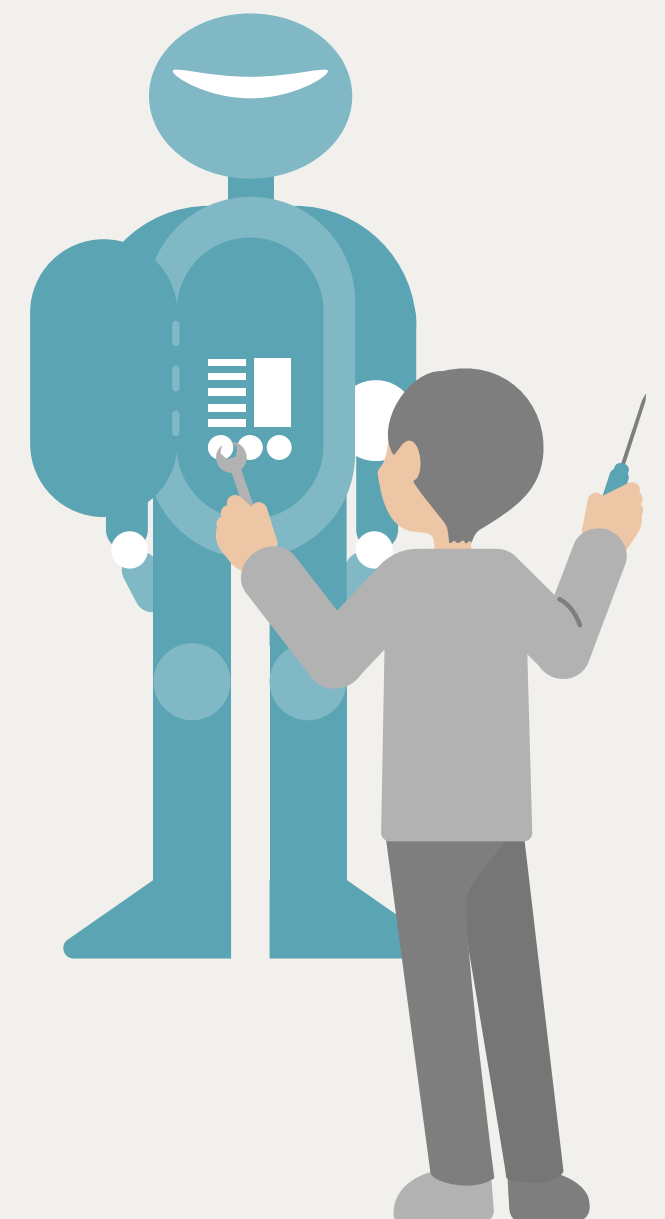
人にしかできないことを
突き詰めていくこと

3



機械が得意なことを
機械にやらせること

4



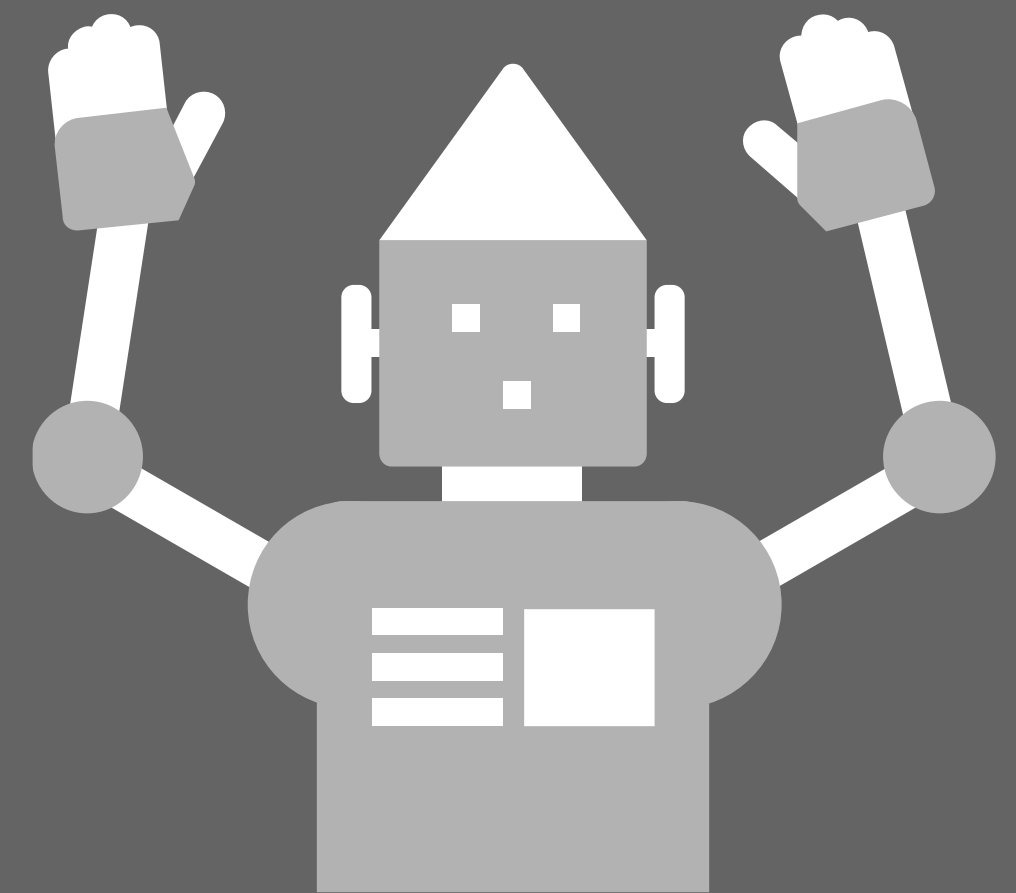
人よりも効率が高く
正確な機械を作ること

機械が得意なこと

first quarter

機械に代替されるべき作業を見極めて自動化する

たとえ社員数が変わらずとも自動化によって提供できるサービスが大きく
増え、顧客満足度も高まります。



機械学習による 広告運用

全自動マーケティング
プラットフォーム



業務オペレーションの 自動化

案件管理社内ツール



クリエイティブの 大量生成

動画クリエイティブ
大量生成ツール



では人が担うべき仕事とは、なんでしょう？

machine

人にしかできないこと

first quarter

広告に関して言えば、クライアントのニーズに沿った戦略を立案し、それを実現するためのクリエイティブを制作すること、つまり“創造”という仕事が挙げられます。そして、より効率的で正確な機械を作ることも、人にしか出来ない仕事です。

戦略を立案する

プロダクトを
開発する

クリエイティブを
制作する



人と機械の共生により

first quarter

私達が目指す人と機械が共生する未来において、その業務を人が担うべきか機械が担うべきかの判断が重要です。機械が得意なことを機械化することで、業務が効率化されるだけでなく、人は人にしかできないことを突き詰めて新たな価値を創造できるようになります。

人にはできないことを
機械化

機械にはできないことを
人に集約

パフォーマンスの
最大化

10年、20年後に環境が変わっても、社員1人1人が活躍できる環境を作り、人儲けを実現します。

サービス事例

first quarter

私達が提供する「人と機械の共生」の取り組み例として、全自動マーケティングプラットフォーム「UNICORN」と運用型広告総合支援システム「STROBELIGHTS X（クロス）」についてご説明します。



全自動マーケティングプラットフォーム UNICORN

first quarter

UNICORNは、機械学習により広告配信の未来予測を可能にします。
思考することのみに集中できる、マーケティング本来の姿の実現を目指しています。



機械学習による
予測人工ルール

毎秒25万リクエスト

買い付けリクエスト

月間買い付け可能
トラフィック

400,000,000,000+
impression

国内最大級の4,000億
インプレッション

1万種類以上の広告

最適な広告選択

0.01秒で単価判断

購入単価の判断



SSP



MEDIA

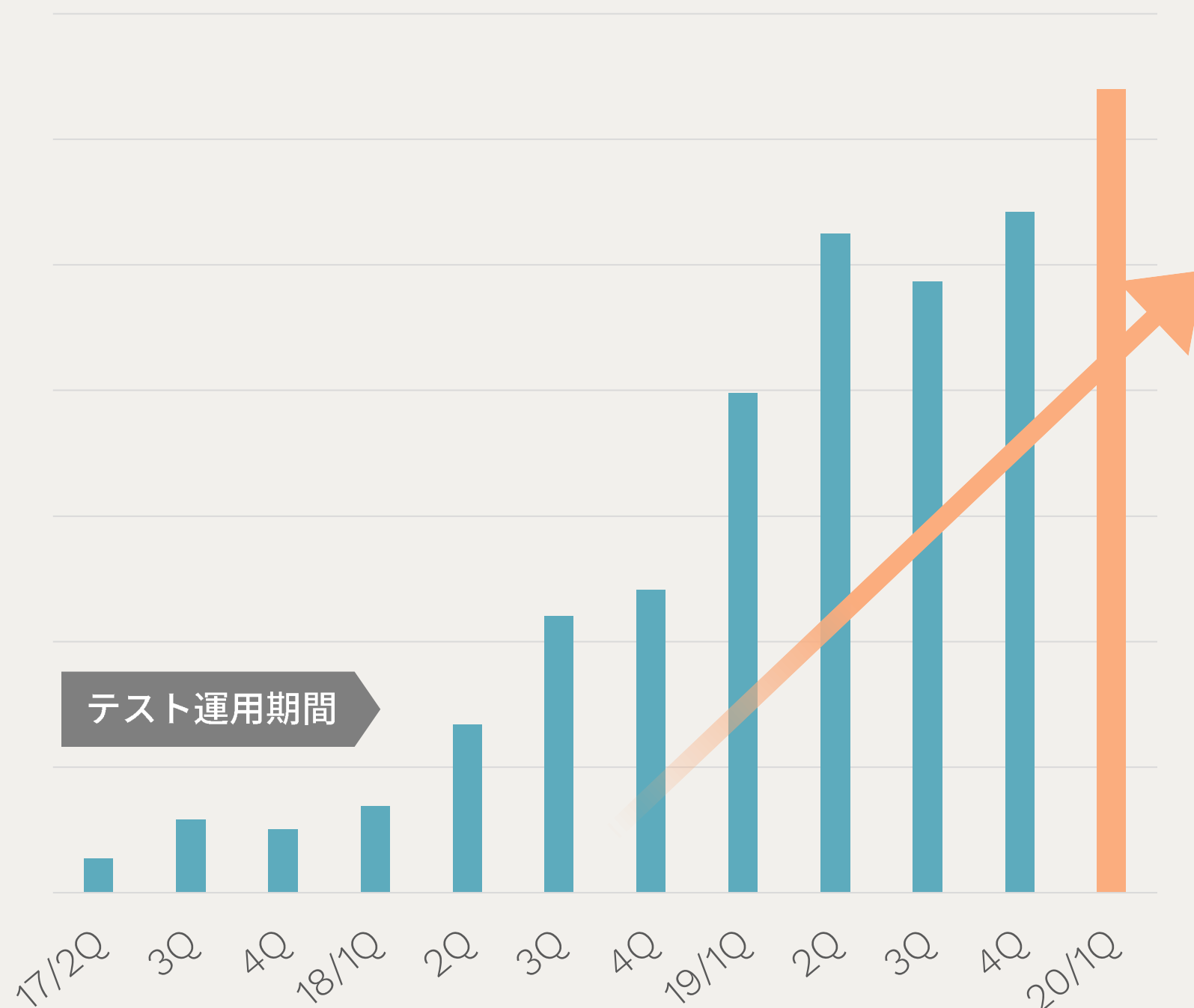
全てのトラフィックを一度受けた上で、独自の不正検出アルゴリズムによって
価値のある広告枠かを機械学習を通じて0.01秒で単価を判断し、入札を行います。

About UNICORN

UNICORNの進捗

first quarter

UNICORNの売上高



売上高は引き続き成長

UNICORN経由での 獲得ユーザーのROAS^{※1}数値



引き続き**高いROAS**を実現

※1 ROAS(Return On Advertising Spend)

投下した広告費に対して得られた利益割合のこと。広告費用対効果。

※2 キャンペーン上位5位を集計。

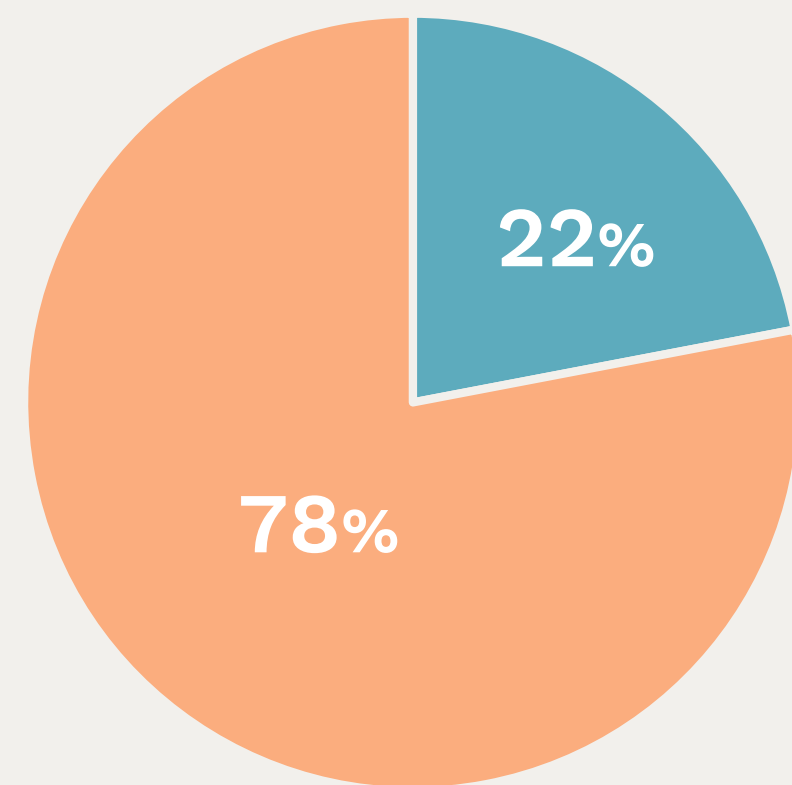
About **UNICORN**

UNICORNの進捗

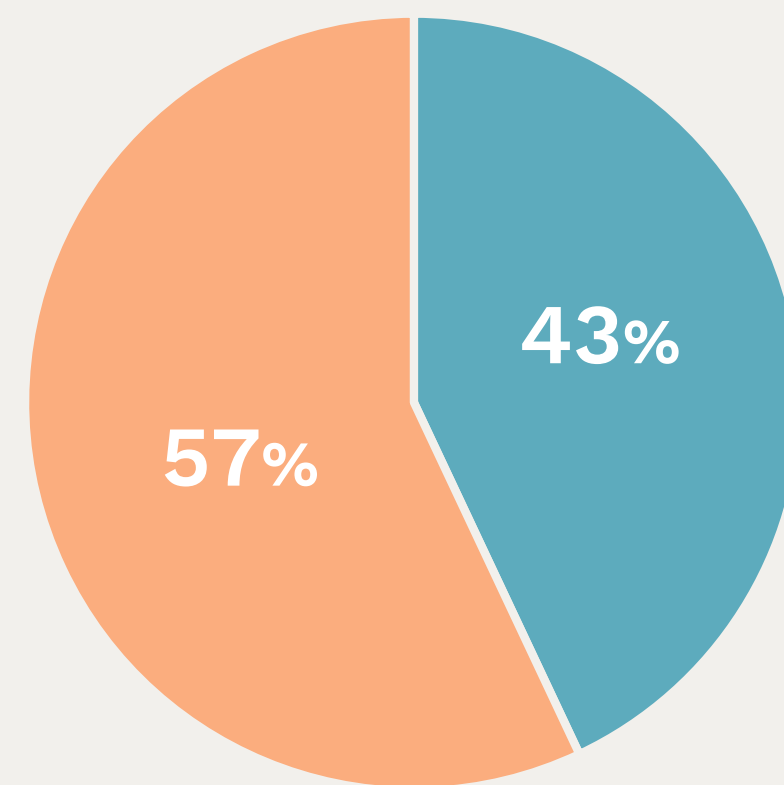
first quarter

代理店への販売の状況

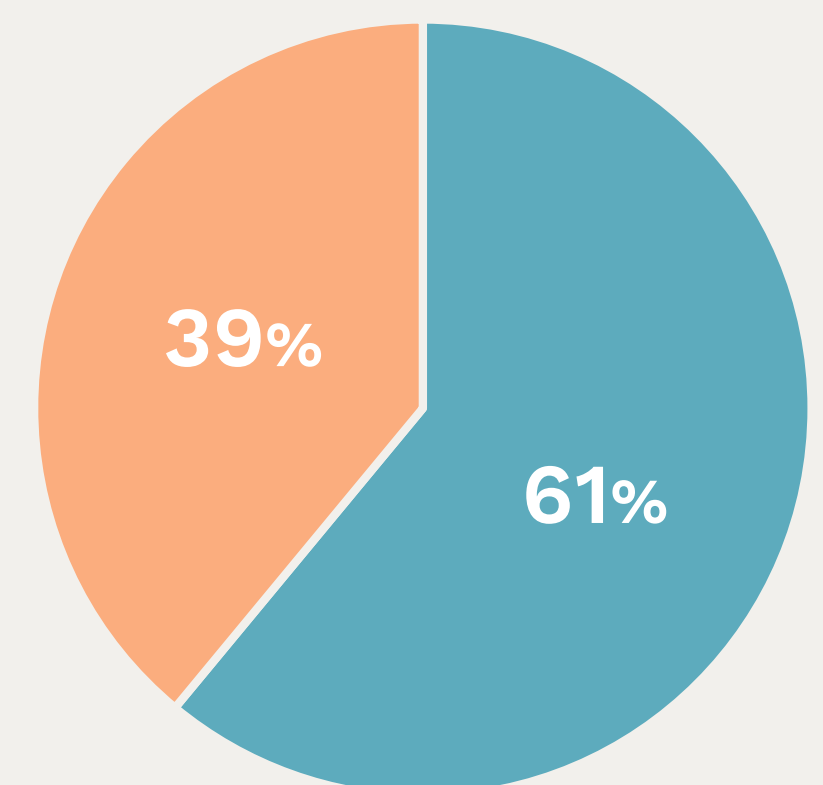
開放前
2019年3月期3Q実績



開放後
2019年3月期4Q実績

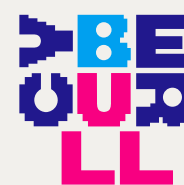


開放後
2020年3月期1Q実績



■ 代理店及び直販
■ アドウェイズ

UNICORNを主要代理店に開放



About UNICORN

運用型広告総合支援システム STROBELIGHTS X(クロス)

first quarter

STROBELIGHTS X(クロス)とは



STROBELIGHTS X

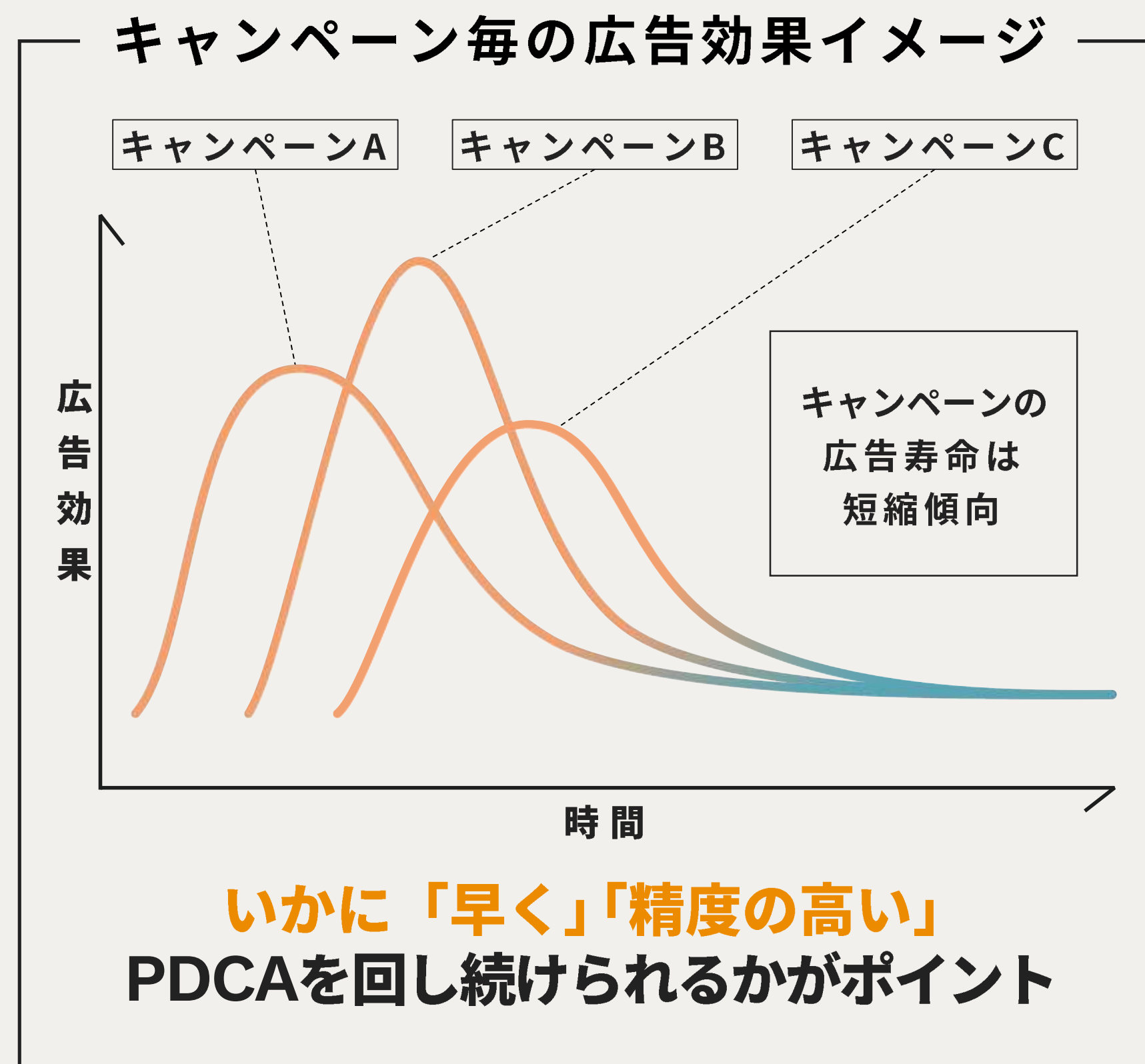
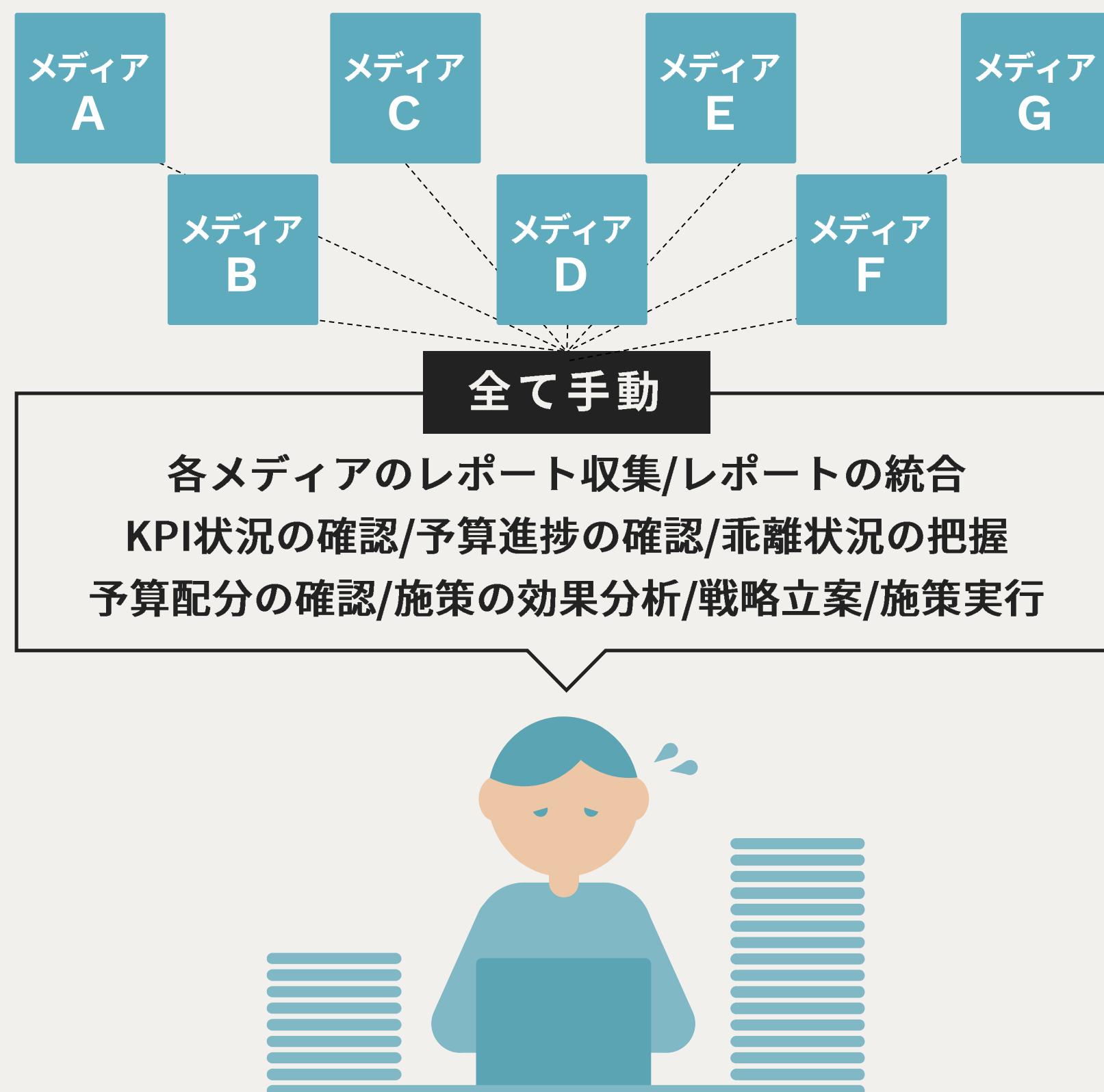
グローバルメガプラットフォーム毎の
配信状況を一元管理できる総合ダッシュボード

運用型広告総合支援システム STROBELIGHTS X(クロス)

first quarter

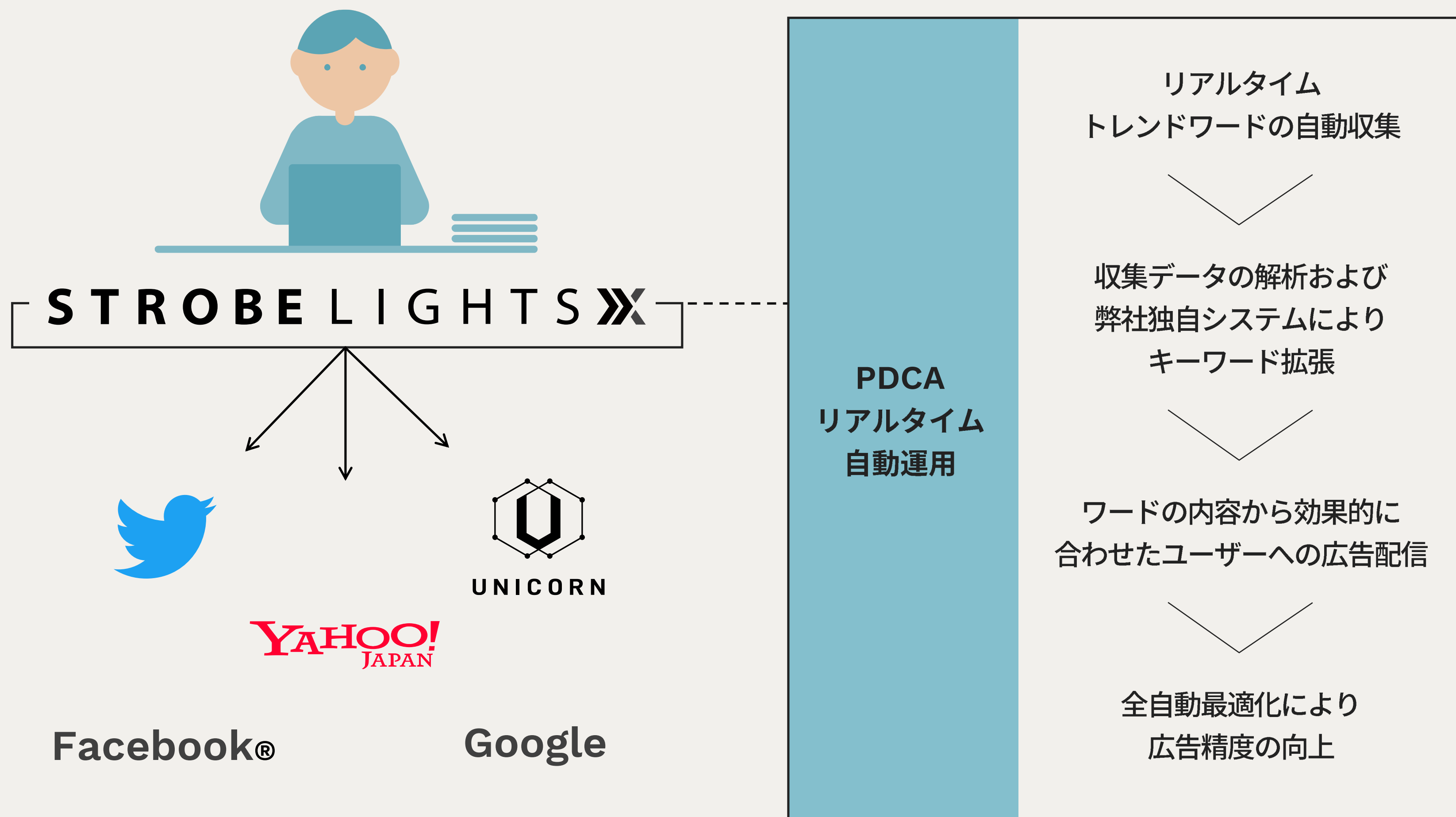
従来の運用型広告

今までは運用担当者が、メディア毎に最適な配信設定・キーワードを捻出し広告効果の最大化を図っていました。



運用型広告総合支援システム STROBELIGHTS X(クロス)

STROBELIGHTS Xでメディアを横断しての一元管理が可能に



ブランド広告

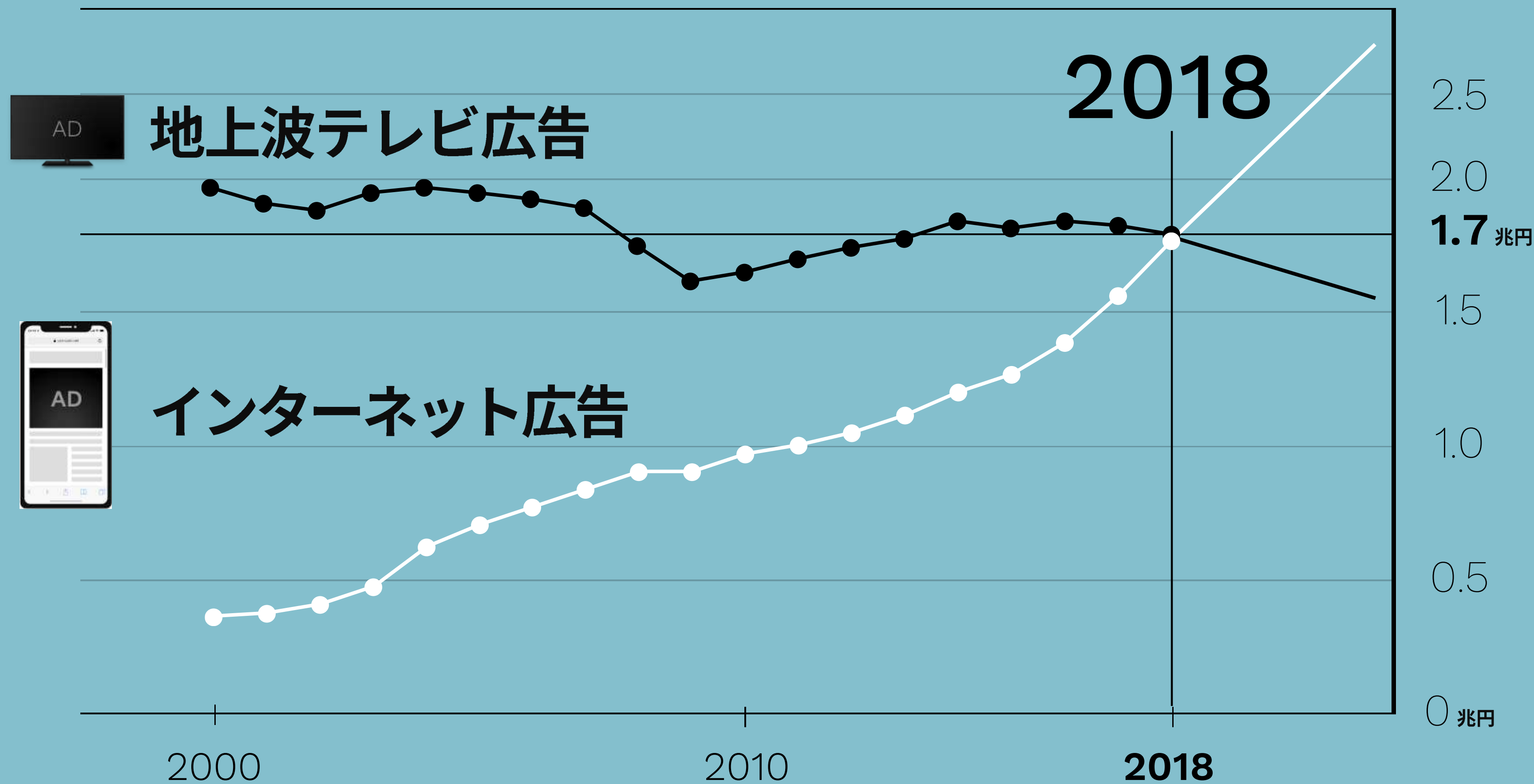
への

取り組み

市場の成長

first quarter

参考資料：2019媒体別広告費 | 電通発表



2019 インターネット広告が
テレビを超える可能性

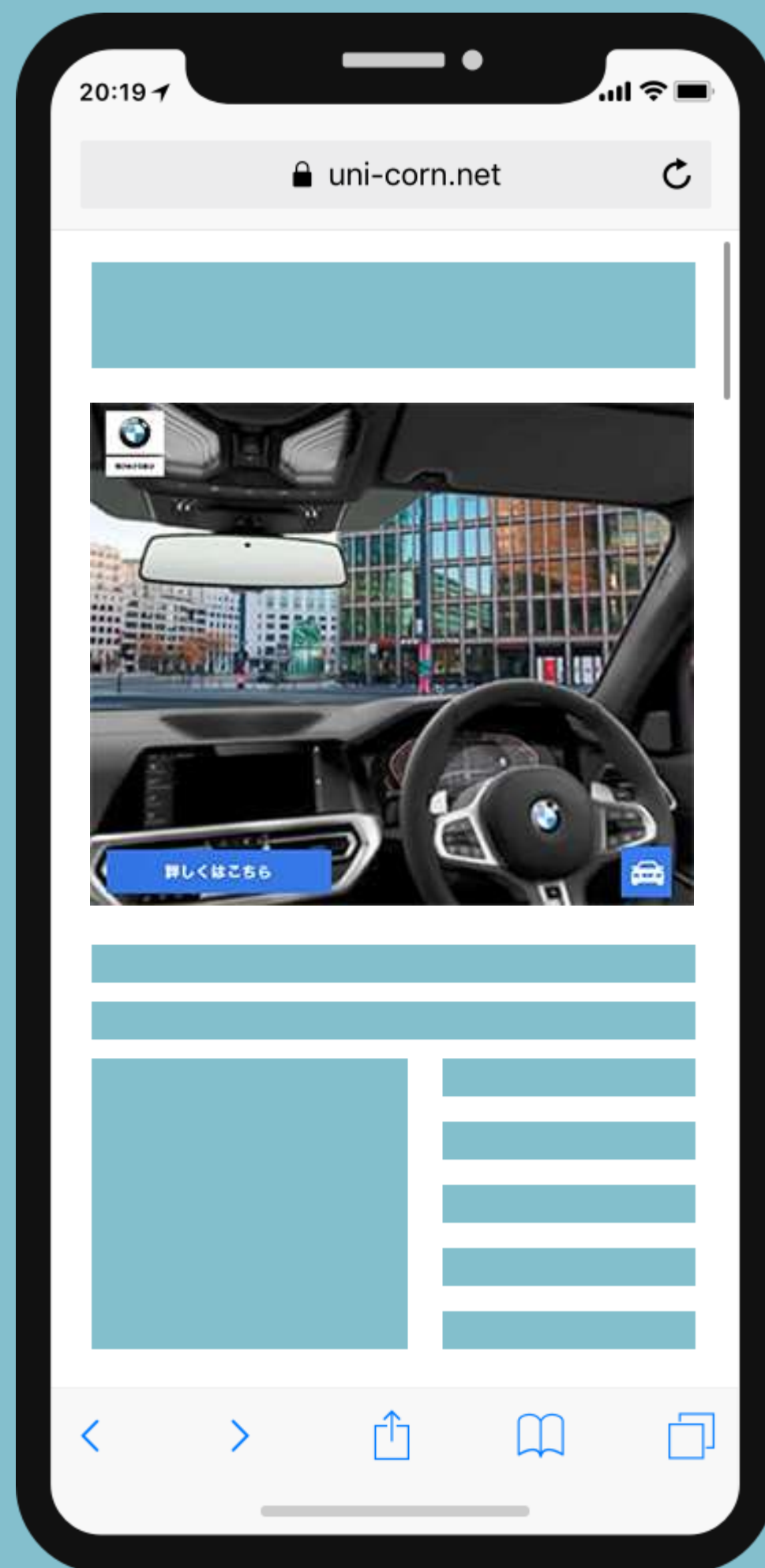
3Dインタラクティブ広告

3Dモデルを利用した体験型広告の実現

first quarter

Overview
of the
first
quarter

interactive 3D ads



本日はありがとうございました

本資料は株式会社アドウェイズの事業及び業界動向についての株式会社アドウェイズによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確かさ、その他要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社アドウェイズは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、発表日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社アドウェイズにより2019年8月5日現在においてなされたものであり、様々な要因の変化等によって、実際の業績とは異なる可能性がありますことをご了承ください。

補 足
資 料

Chapter 3 : **Supplementary materials**

3

連結売上高 年間業績推移

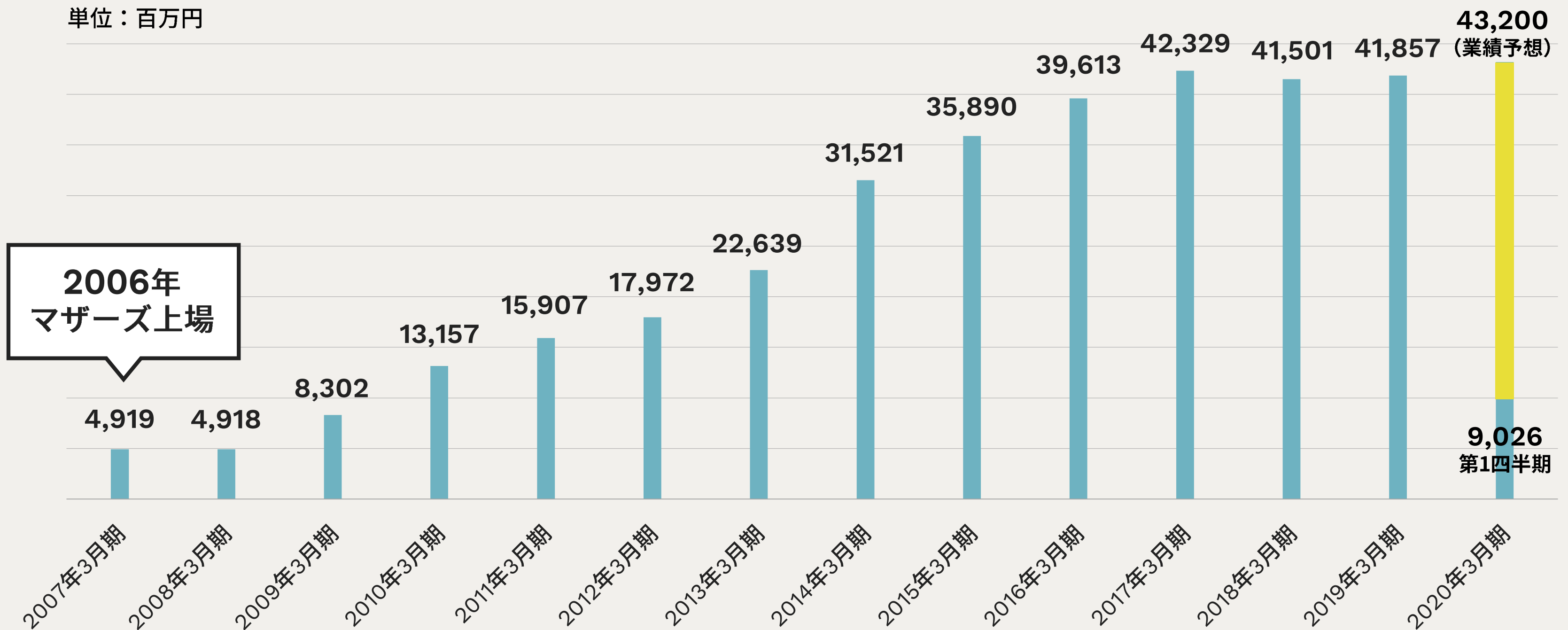
PC/フィーチャーフォン
アフィリエイト事業に注力

スマートフォン広告事業
の開始と拡大

海外への注力

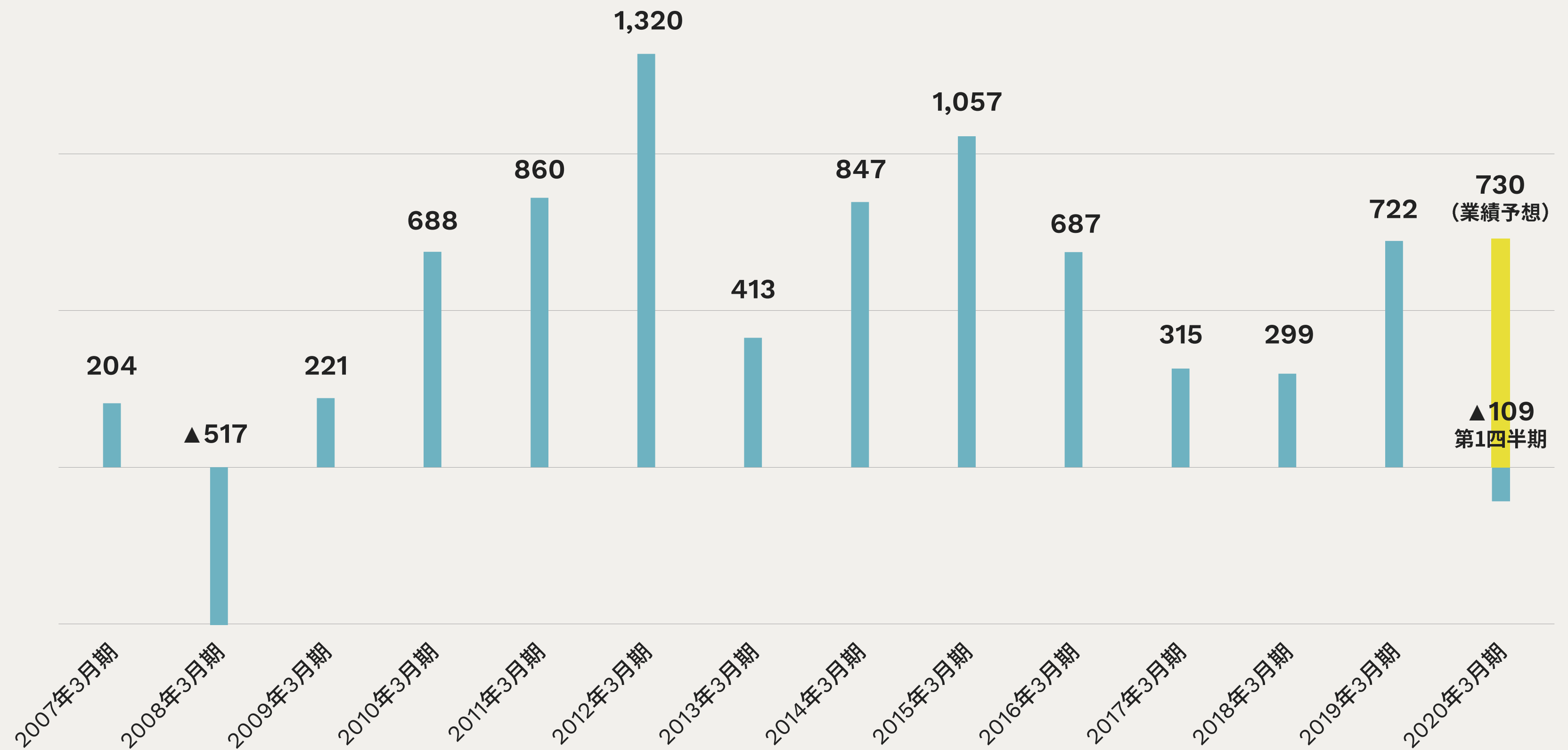
新規プロダクト
への注力

単位：百万円



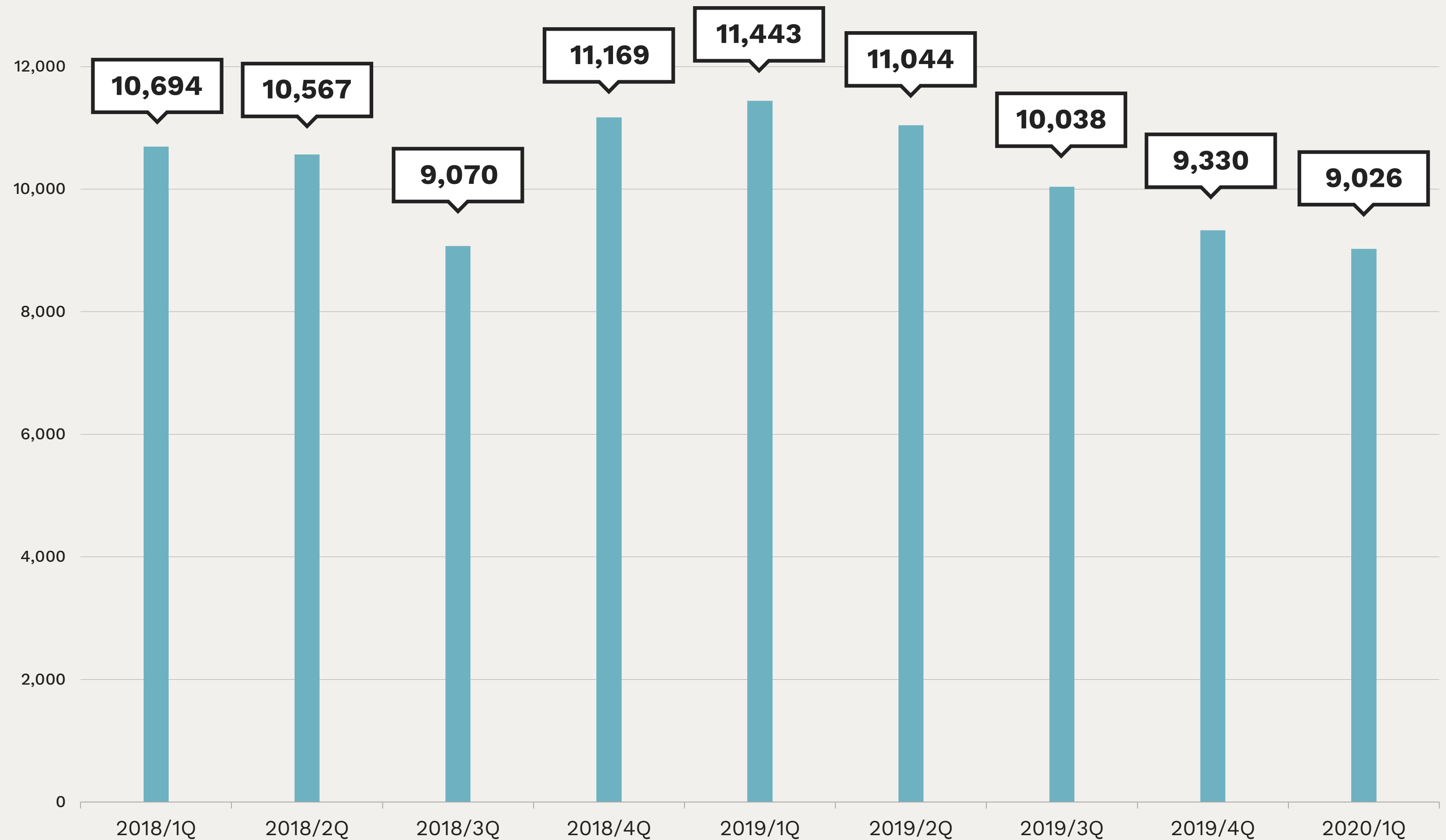
連結営業利益 年間業績推移

単位：百万円



連結売上高 四半期推移

単位：百万円



連結売上原価 四半期推移

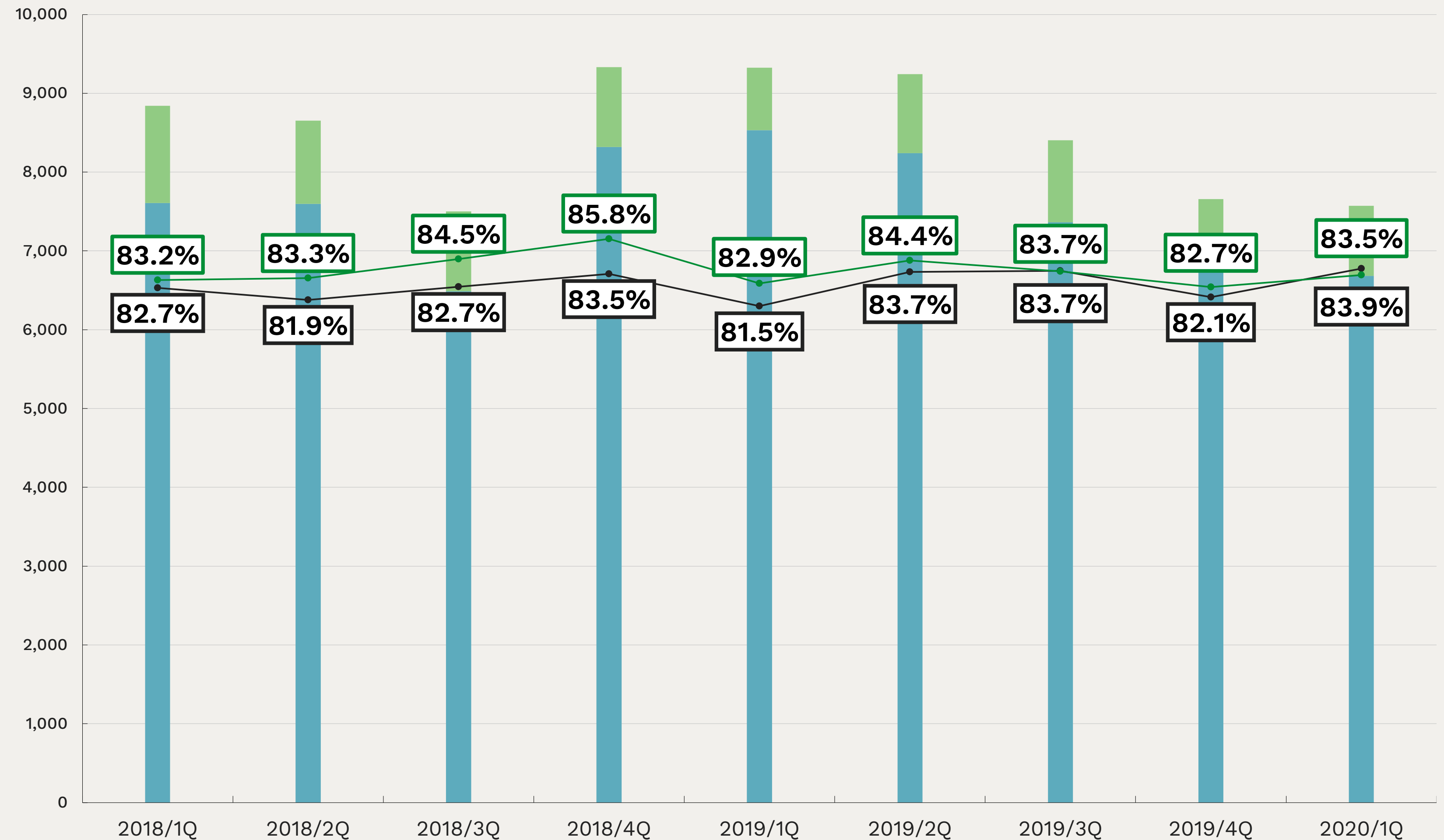
単位：百万円

■ 掲載料

■ その他原価

● 対連結売上高売上原価率

● 対単体売上高掲載料率



連結販管費 四半期推移

単位：百万円

人件費

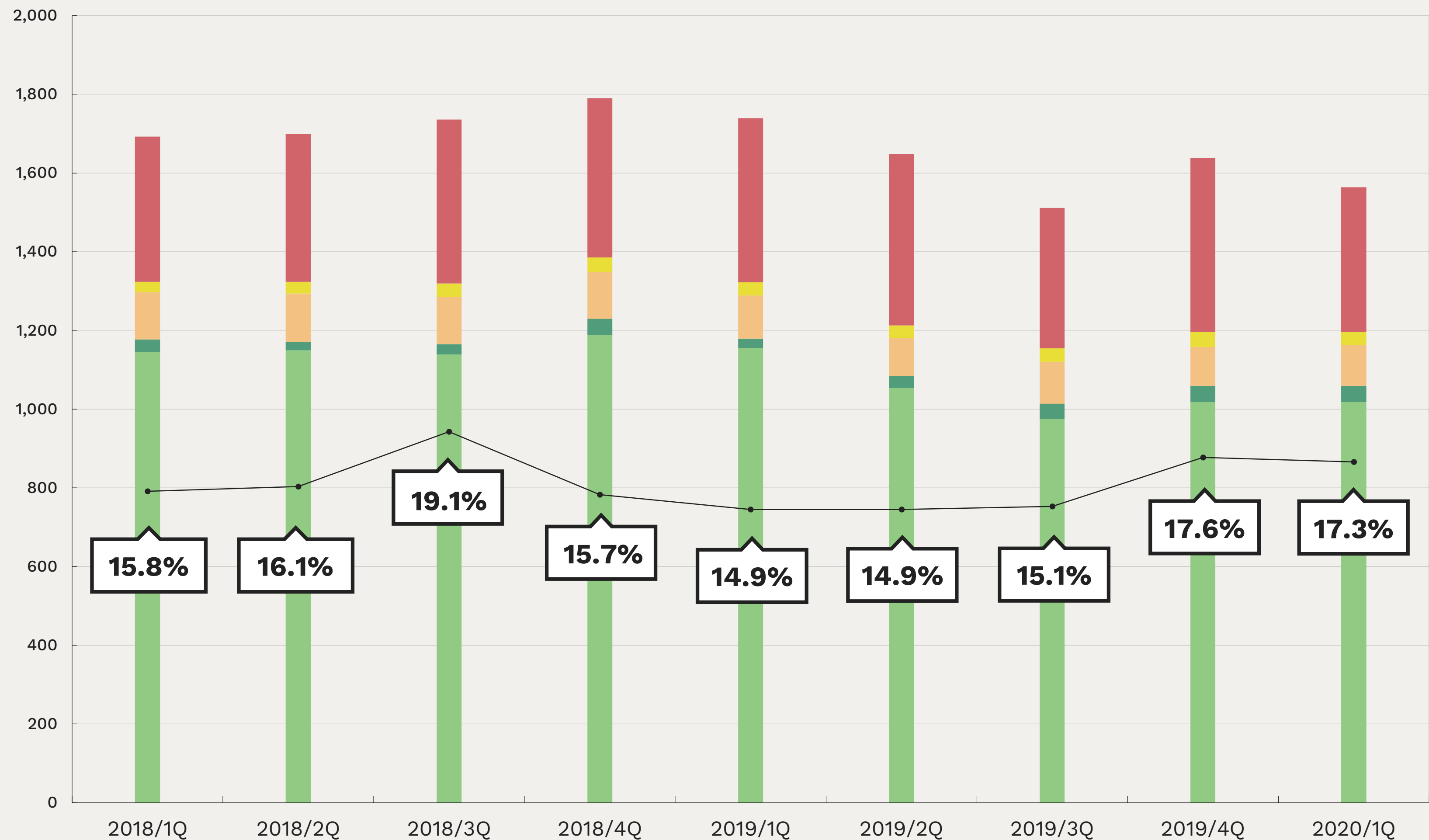
採用教育費

地代家賃

減価償却費

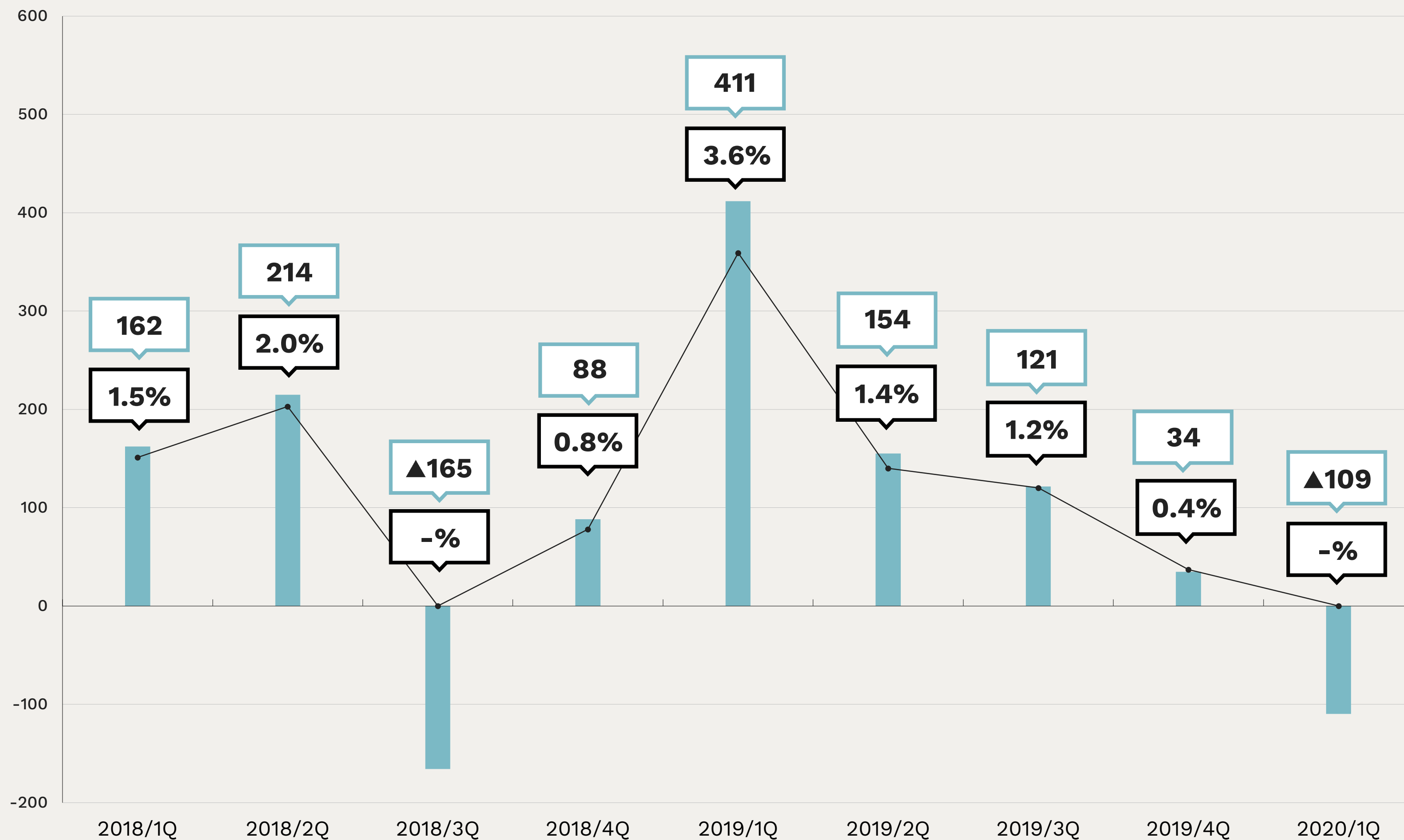
その他経費

対連結売上高販管費率



連結営業利益 四半期推移

単位：百万円 ■ 営業利益 ● 対連結売上高営業利益率

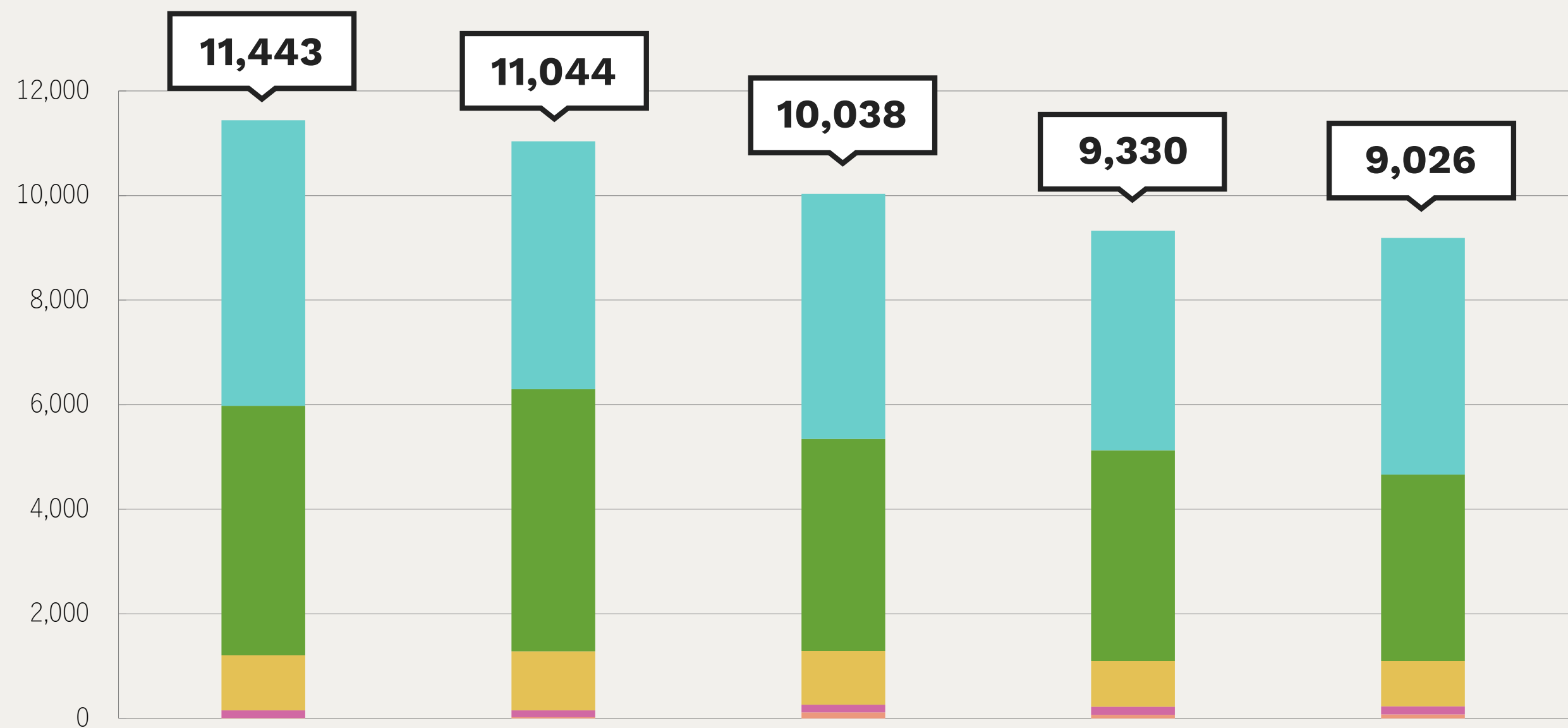


連結貸借対照表（前四半期比）

[単位：百万円]

	2020年3月期1Q	2019年3月期4Q	増減額	増減率
流動資産	14,517	15,108	▲591	▲3.9%
（現預金）	9,676	10,167	▲491	▲4.8%
固定資産	2,532	2,711	▲179	▲6.6%
総資産合計	17,049	17,820	▲771	▲4.3%
流動負債	5,775	6,162	▲387	▲6.3%
固定負債	162	134	28	21.3%
負債合計	5,937	6,297	▲359	▲5.7%
純資産合計	11,111	11,523	▲411	▲3.6%

セグメント内訳別連結売上高構成比 四半期推移

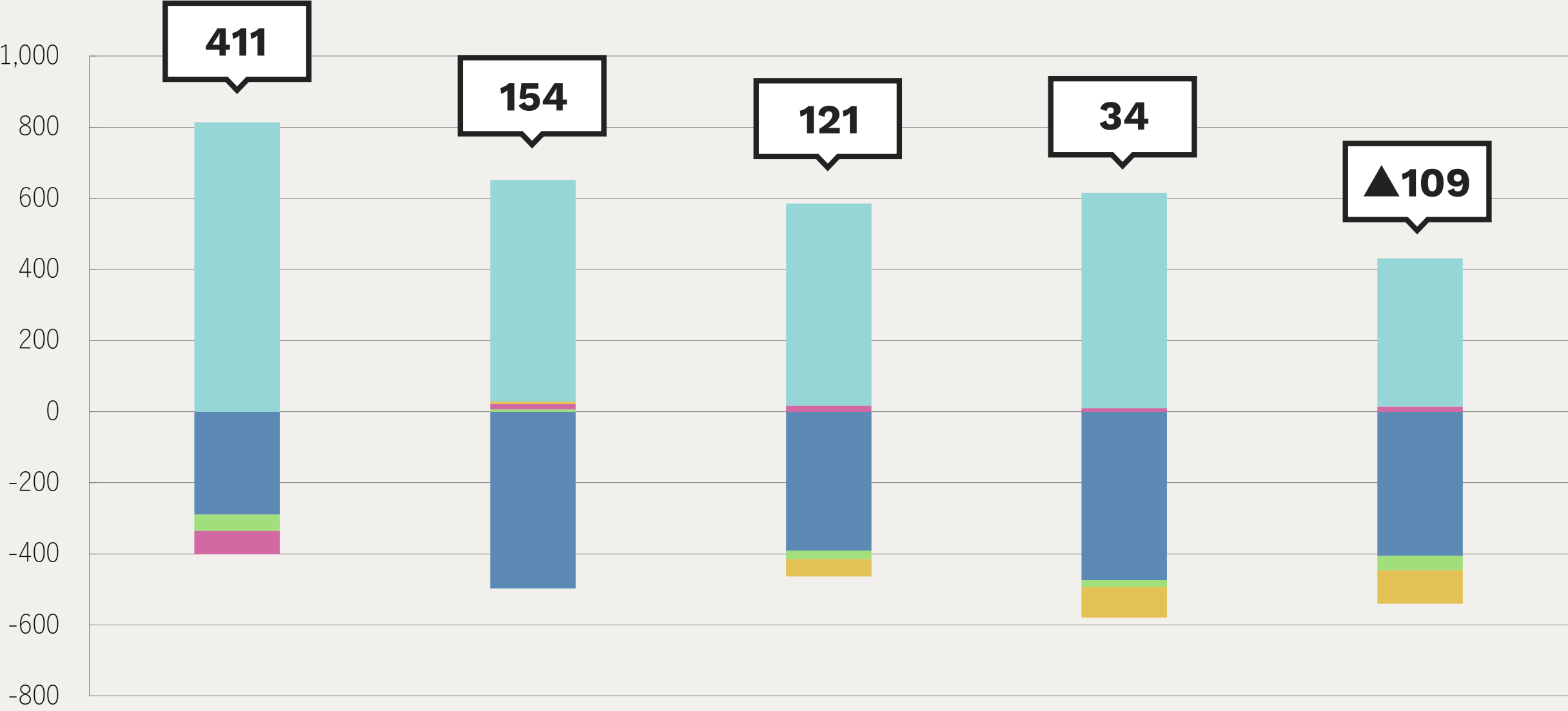


単位：百万円

						前四半期比	
						増減額	増減率
スマートフォン	2019/1Q	2019/2Q	2019/3Q	2019/4Q	2020/1Q	+326	+7.8%
インターネット	4,774	5,012	4,051	4,037	3,567	▲469	▲11.6%
海外	1,049	1,132	1,031	871	705	▲165	▲19.0%
メディアコンテンツ	149	134	142	156	150	▲5	▲3.7%
その他	5	21	118	67	78	+10	+14.9%
合計	11,443	11,044	10,038	9,330	9,026	▲304	▲3.3%

※2020/1Qよりセグメント名称をアプリ・メディアからメディアコンテンツに名称を変更しております。

セグメント内訳別連結営業利益構成比 四半期推移

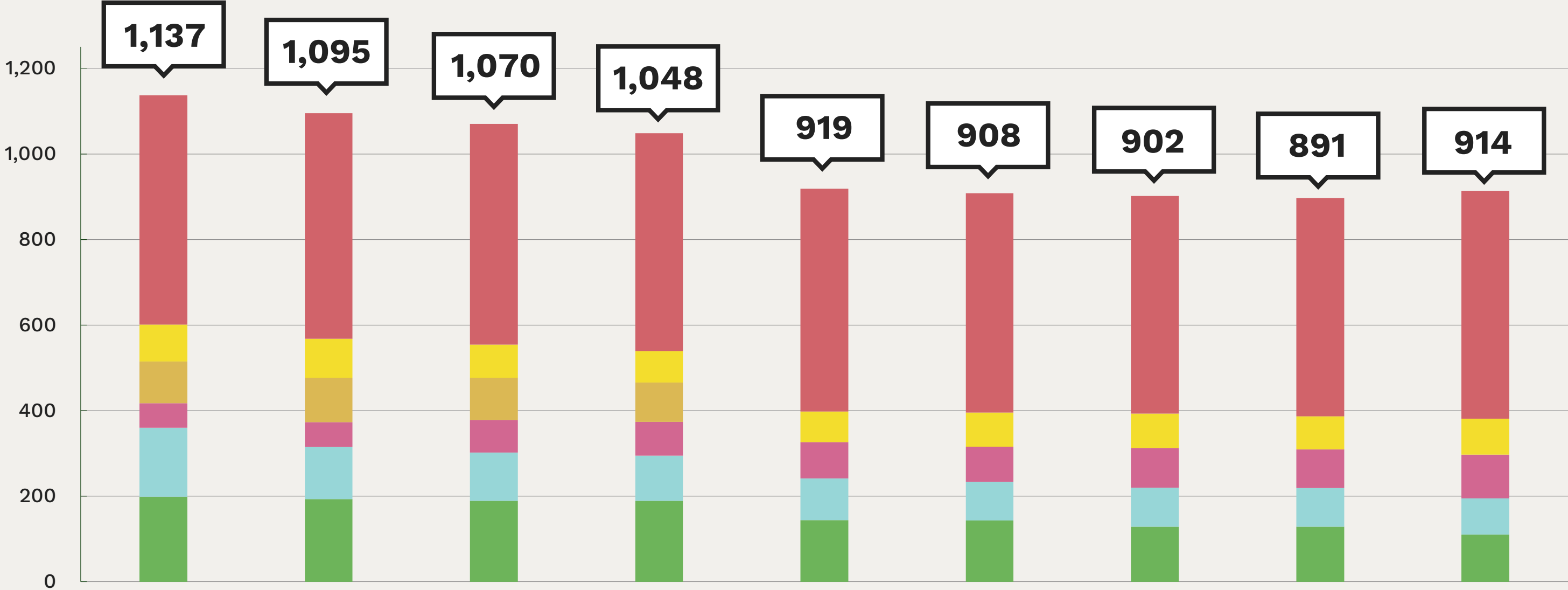


単位：百万円

						前四半期比	
						増減額	増減率
広告	2019/1Q	2019/2Q	2019/3Q	2019/4Q	2020/1Q	▲190	▲31.4%
海外	0	6	▲49	▲86	▲94	▲7	—
メディアコンテンツ	▲65	16	17	10	15	+4	+44.8%
その他	▲47	6	▲23	▲20	▲41	▲20	—
消去又は全社	▲289	▲497	▲392	▲474	▲405	+69	—
合計	411	154	121	34	▲109	▲144	—

※2020/1Qよりセグメント名称をアプリ・メディアからメディアコンテンツに名称を変更しております。

当社グループの従業員数 四半期推移



単位：名		2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	2019/2Q	2019/3Q	2019/4Q	2020/1Q
	日本アドウェイズ	536	527	516	509	521	512	509	510	533
	中国アドウェイズ	86	91	77	73	72	80	80	78	84
	中国開発センター※	98	104	99	92	0	0	0	0	0
	国内子会社	57	58	76	79	84	82	93	90	102
	海外子会社（中国以外）	161	122	113	106	98	91	91	90	85
	派遣／アルバイト等	199	193	189	189	144	143	129	123	110
合計		1,137	1,095	1,070	1,048	919	908	902	891	914

※2018年3月末にMBOが行われたことにより、中国開発センターの従業員数が「0」になっております。

会社概要

quarter performance

会社名

株式会社アドウェイズ（英名：Adways Inc.）

設立年月日

2001年2月28日

事業概要

インターネット関連事業

代表者氏名

岡村 陽久

資本金

1,605百万円

[2019年6月末日現在]

売上高

41,857百万円

[2019年3月期連結]

従業員数

※臨時雇用者含む

914名（グループ全体）

[2019年6月末日現在]